夕。英帝國諸國ハ主トシテ日本品ノ場合デアルガ同期間ヲ比較スルニ三ツ

一、再輸出國ハ九ヶ國ヨリ減退ヲ示セリ。

四、輸入量ハ一、九四一、四一〇ヶ

〇、總輸入量ハ一、〇ヶ

英帝國諸國ヨリノ總輸入量ハ一ヶ月四一一〇噸ヲ加增シ一〇一四噸ニ達セリ。

再輸出ハ主トシテ日本品ニシテ輸入ニ比スレハ僅ニ三分ノ一ニ過ギス。

P-11-0

南洋情報

一九三七年六月馬來亞對外貿易

「七月二十六日統計局發表」

輸出入總額	一、三八一、一八一、〇〇〇弗
輸入	六四、一九九、〇〇〇弗
輸出	七三、九八二、〇〇〇弗
出超	九、七八三、〇〇〇弗

輸入に於いて前月より九百十五萬二千弗、前年度六月に比較して二千三百九十二萬二千弗の何れも增加であつた、輸出は前年度六月に比すれば二千二百九十九萬五千弗の增加を示したが、前月より三十八萬八千弗の減少を來した。

本年度一月以降上半期累計

輸入	一九三七年度上半期 三、四四、六二八、〇〇〇弗

一九三六年度上半期	二、四〇、四二七〇〇〇弗
本年度增加	一、〇四、二〇一、〇〇〇弗
輸出	
一九三七年度上半期	四、五三、八〇八、〇〇〇弗
一九三六年度上半期	二、九五二、七四〇、〇〇〇弗
本年度增加	一、五八、五三四、〇〇〇弗
本年度上半期出超	一、〇九一、八〇〇、〇〇〇弗
對日貿易	
輸入	四、六〇九、〇〇〇弗
輸出	四、六三七、〇〇〇弗
出超	二八、〇〇〇弗

輸入に於いては前月の四百〇六萬七千弗に比して五十四萬二千弗の增加を示したが輸出に於いて前月の五百七十九萬八千弗に比較して百十六萬一千弗の減少を見せた。

了百十六萬一千弗の減少を見たが。

「蘭領東印度の輸出入統計は次の如くである。

輸出　二八〇〇〇〇弗
輸入　四六三〇〇〇〇弗
貿易差額　四六〇〇〇〇弗

本年上半期輸出　一〇〇一八〇〇〇〇弗
本年上半期輸入　一〇〇一八五〇〇〇〇弗
一九三六年上半期輸出　三〇〇〇〇〇〇〇弗
一九三六年上半期輸入　四五〇〇〇〇〇〇弗

本年上半期輸出　一〇〇一二〇〇〇〇弗
一九三六年上半期輸出　二〇〇四〇〇〇〇弗

其他各國の輸出入統計を示せば

國名	輸入	輸出
英國	一〇、二〇一	八、四二二
英領各地	九、四六五	一二、〇九八
歐洲各國	三、八〇八	一二、八九九
米國	一、七〇二	二九、一〇四
蘭領印度	二二、三八五	三、三八七
其他	一、一四六九	三、二六八

（單位千弗）

護謨

護謨民地總督が發明せる標準護謨市價九片二分の二を制限率の

六月の新嘉坡護謨現物相場は最高三十四仙四分の一（二日）最底三十一仙八分の一（十日、十一日）の「レンヂー」を行使し產地の供給關係より外電入報に左右され悲喜相錯綜して一部のスペキュレーター筋にとりては絶好の活動期であつたゝが、米國の罷業、英國の

ゴールドポリシイ、フランス内閣の總辭職に伴ふフランのデヴアルエーション懸念取引所停止並にモラトリアム、依然たる歐洲政情の不安等は、その推移の情勢が敏感に産地に反映して全月を通じて觀たる護謨價は全く延び惱みの形であつた。若干の産地は生産輸出統計の改善位ひでは産地市價の恢復は目下の處望まれない。一つのテンデンシイである。

現行國際生産制限協定も既に滿三年となり、之れに關して種々論議がなされてゐるが、護謨生産國側からの觀察は成功に近い實績を擧げ、且つ法の運用も大局的に視て滿足すべきものであると謂れる。

海峽殖民地總督が聲明せる標準護謨市價九片二分の一も制限率の最大限度の緩和によつて實現された今日、市價を左右するものは一つに消費國側の態度とその實情に懸つてゐるとみられる、世界の主要生産國なる馬來亞及蘭領東印度が近來消費國側の立場より護謨價を批評し "Reasonable Level" の問題を討議する樣になつた、消費國本

位に傾き來つた事は世界的大勢によるとは云ひ馬來亞に潛在する米國資本の壓力である。

これに關して馬來亞當局の懸念警戒するものは、對米二億弗出超の今日、その求償貿易主義により、これをカヴーして餘るべき重要物資の何物も持たない米國の現狀よりみて、護謨の奔放たる上騰である。玆にスペキレーター筋の乘ずべき機會が孕まれてゐる即ち制限緩和に因る下半期の出廻りに對して思惑戰が既に開始されて來た、右の如き狀勢の中前途は全く豫斷を許さない「ポジション」にある。

六月中積出港別馬來亞ゴム輸出統計

積出港	一九三六年六月	一九三七年六月
新嘉坡	二五、八八四	三八、六〇〇
彼南	八、九八四	一、三五七
マラッカ	一七二	二七一
ポートスキッテンハム	五、〇四九	四、五八一
合計	四〇、〇四九	五四、八〇九

馬來亞六月分制限生産額は三萬九千二百六十七噸なるも制限緩和に因り實生産四萬三千九百三十二噸となつた、その輸出總量は前記統計の示す如く五萬四千八百〇九噸、五日分の五萬一千百五十二噸に比較して三千六百五十七噸の增加を示した。

六月の生産額は五萬一千五百六十九噸本年度上半期生産總額は二十三萬〇七百四十一噸であつた。

錫

六月馬來亞錫輸出總額は六千三百九十一噸にて本年度上半期に於ける最底量であつた、前月の七千百五十三噸に比して七百六十二噸の減少を示した、尙今年上半期總輸出額は四萬五千三百九十五噸にして各月別に示せば

一九三七年一月	七、九三八噸
二月	六、五九五〃
三月	九、一四〇〃

四月	八一七八噸	四三七〇噸
五月	七一五三〃	六〇〇〇〃
六月	六三九一〃	六四六〃
		三〇八〃
		四二九〃

（六月末世界の錫ストックは二萬二千四百三十九噸、五月末の二萬三千〇二十七噸に比して五百八十八噸の減少であつた）

六月中輸出各國向けは

米國	四三七〇噸
英國	六〇〇〇〃
歐洲各國	六四六〃
英屬領	三〇八〃
日本	四二九〃

六月中の錫價は百二十二弗に明けて二日に二十五弗と昇漲したるも第二週に入り百二十三弗より二十一弗と低調を見せたが第四週に至つて二十六弗と好調を示し三十日百二十五弗に終つた。初旬の反

三月	八一四〇〃	
二月	六三八〇〃	
一月	七八三八噸	

米國	五千三百八十五噸
英國	六千二百六十二噸
歐洲各國	六千八十一噸
英屬領	六千三百八十一噸
日本	六千三百八十一噸

（六月末世界の錫ストックは二萬三千四百三十一噸であつた。

六月中の錫價は百二十二弗に明けて二日に二十五弗と昇漲したるも第二週に入り百二十三弗より二十一弗と低調を見せたが第四週に至つて二十六弗と好調を示し三十日百二十五弗に終つた。初旬の反

滕は國際錫研究委員會のヘーグ統計により、三月以降の世界錫消費が英獨以外の諸消費國に於いて著しく增加を示して來たと發表したその反映とみられる本年度第一クオーターの世界錫總消費量は四萬九千四百三十二噸、前年同期の三萬九千九百九十九噸に比較して實に九千四百三十三噸の增加であつた。これに對して世界生產總量は本年度第一期四萬四千百十噸、前年同期の三萬九千〇六十五噸五千〇四十五噸の增加を示した。

馬來亞に於ける錫原鑛生產減に因り本年四月五月の輸出量は兩月輸出許可量に不足することと實に一千二百八十五噸であつた。これにより錫業者間に原鑛生產減退問題が關心を持たれて來た、本年四月末全馬來亞百五十台のドレッヂャーの中運轉中のもの九十台にして殘り二十五台は休止されてゐた、これは生產割當決定量の遞退を見越しその一部業者の意志によつてなされたものである。六月二十四日突如馬來亞聯邦政府は錫の生產遞增並領內に不斷に「リーズナブ

ルな原鑛ストツク」を保持する見地より一九三一年國際カルテル結成以來禁止中の採鑛、試掘及鑛山地の讓渡を條件付にて許可する旨鑛山局長エツチ、ヂー、ハーリス氏よりコミュニケの形式を以て發表した。これによつて生産制限が緩和されるものとして一般業者は滿足した、今後新規試掘ライセンスの申請、マイニング、リーズの申請、農業地を鑛業地として利用すべきライセンスの申請等が自由になされることになつた、政府附帶條件は是等願書の受理拒絶權を保留したるに過ぎない。

原鑛生産減退問題は獨り馬來亞のみならず、カルテル加盟國全部に亘り共通的現像であつて各國共に採鑛に努力が續けられてゐる。本年四月加盟國アンダー、エキスポート數量（割當量全量に達せざる數量）次の如し

馬來亞	三三九噸
ボリビヤ	一一、五〇一〃

白領コンゴー	二、七六三噸
蘭印	二、〇〇〇〃
ナイジエリヤ	七一四〃
シヤム	九九一〃
合計	一八、三〇八噸

これは世界消費量及錫價に招來する相當重大な問題である。

S氏は朝鮮界隈の實情及調査の結果を以て本件當重大なる問題なりとす。

一、八三〇八物刊義」ナ。

〃　一九九一〃

〃　一四〃

二〇〇〇〃

二十六三圓

白鹽七ヘ

P-11-D

南洋情報　十二、九、十八

煙草稅法の修正

海峽殖民地立法會議が九月十六日午前九時三十分緊急召集開會され僅かにシンガポールの官吏及非官吏議員のみによつて討議が行はれた。

一九三二年十月十九日施行の煙草稅法の第四條第一節第二百二十二章を修正、一九三七年煙草稅法として本年度九月十日より施行する案が上提、提出理由につき同法が實施後既に五ヶ年を經過したる今日事情著しく變化してゐることを說明、一氣に通過した。

同修正法は別に稅率の改正は行つてゐないが、本回自治領大臣の提議によつては改正を行ふべき餘地を殘したもので、尙全英國領土自治領を含む「大英帝國」製品に對し一律に特惠稅率を課したことは注意すべきである。

尙海峽殖民地政府は一夫一婦制確立の爲近く一夫一婦制婚姻法、結婚登錄法、離婚法の三法案を立法會議に上提する旨九月十七日附官報を以て豫告した。

「これは一夫一婦制婚姻法によつて殖民地內に於て婚姻關係を結べる者は、その習慣、宗敎乃至は自國の法律によると雖も第三者と更らに二重婚姻關係を結ぶことを得ず、としたもので若しこれを犯せは重婚罪として處斷されるものである」●

ゝされた。

「若しかやうのものが王侯貴族に與へられたとしたら、それは絶対に無責任な權力を與へることになるであらう。」

三章の廢止されるまで自國の法律に拘束されることになつてゐる。

宗教、婚姻、家族、財産、宗教、結社、集會、言論、出版、信教、居住、移轉、所有、信教、居住、移轉、所有、信教、居住、移轉、所有

十月二十七日

南洋情報

一九三七年八月馬來亞對外貿易

北支事變發生以來日貨抵制の可否に迷つて居た華商もその事件擴大と南京政府よりの指令を受け、八月に入りて自發的ボイコットが實行され一切の先物契約が解消停止となり、馬來亞對日貿易の影響を注目されたが、九月二十三日統計局の發表によれば對日輸入は五十四萬三千弗の減少に過ぎなかつた、これは本格的ボイコットの實行された時は既に積出濟、契約品の入荷が相當あつたことによるが、九月以降の影響は甚大なものと見なければならない。

馬來亞八月輸出入總額は一億四千四百四十萬五千弗であつた。

（前年度八月九五、一三九、〇〇〇弗）

輸入　六三、六八三、〇〇〇弗

輸出　八〇、七二二、〇〇〇弗

輸出　八〇、七二二、〇〇〇弗
輸入　六、六八二、〇〇〇弗

（前年度八月末迄一二、六〇〇、〇〇〇弗）

調査期八月輸出入額は一億四千四百四十萬五千弗であつた。

此月以後の輸出入額は大分の減少を見たのであるが、輸出品の入荷は相當あつたにもかゝはらず、輸出は前年度に比べ輸入

輸入	二〇〇〇〇〇〇弗
輸出	三八六一〇〇〇〇弗
輸入	四〇六一〇〇〇〇弗

暹羅日貿易

九萬五千弗を加算せざるべからざるなり。

前年同期に於ては輸入一億四千九十九萬弗、輸出二億一千三百

（前年同期は四一八四八〇〇〇弗）

暹羅一〇九五三〇〇〇弗

輸出　六二二四〇九〇〇〇弗

輸入　四三三二六〇〇〇弗

本年一月以降八月迄の累積は

輸入　四三三二六〇〇〇弗

輸出　一九〇三九〇〇〇弗

となり、輸入に比較せば輸入百三十三萬二千弗、輸出九百十五萬五千弗

二十萬弗の輸入超過を示したが前月よりは五十四萬三千弗の減少となり、輸出に於ては百六十二萬二千弗と大きな減少をみた、然し前年同期に比較すれば輸入百十萬弗、輸出十二萬七千弗の各増加を示したのである。

其他各國別貿易額は

國別	輸入 弗	輸出 弗
英本國	一〇、二六〇、〇〇〇	一〇、九四四、〇〇〇
英屬各地	九、八〇一、〇〇〇	一、〇五〇、〇〇〇
歐洲各國	四、〇九一、〇〇〇	一〇、八一五、〇〇〇
米國	一、四一二、〇〇〇	三七、六七三、〇〇〇
日本	四、〇六一、〇〇〇	三、八六一、〇〇〇
蘭領東印度	一、九八五、〇〇〇	二、六八一、〇〇〇
其他	一三、六九九、〇〇〇	四、〇四二、〇〇〇
合計	六三、六八三、〇〇〇	八〇、七二二、〇〇〇

護謨

護謨市場は依然として歐洲及東洋に於ける政治的諸事件によつて直接、間接に動搖させられてその安定を得ない、米國に於てはルーズベルト大統領に反對する政治關係筋が合成物抑壓に愼重な工作がなされつゝあると傳へられ、これが成功の曉は自動車生產及販賣高の減少が招來されるのではないかと云はれるが、護謨工場筋は市場に何等の動きを見せてゐないと、情報は確然たるものがない、自然相場の大きな變動は豫想されないが、この弱腰の儘で行くのではないかと見られてゐる。

九月二十八日開催される國際ゴム制限委員會に關しては割當量引下げは期待出來ないと云はれる、

在庫量は危險的に低下し、貯積されねばならぬ狀態に在るために十一月開催される次回委員會迄に相場が現在の水準で進むならば明年

度割當の引下げが考慮されるものと一般消費關係筋に傳へられてる。

輸出許可割當量に不足を續けた馬來亞はその全量生産を疑問とされてゐたが、八月分生産は割當超過となつた、全生産四萬八千三百八十三噸に達し四千二百八噸の許可量超過を示した。一方世界在庫量低下に反比例して馬來亞の八月在庫量は九二、六六一噸に達し前月より四、六一五噸の增加となつた、これは馬來亞の生産增加にもよるが日支事變の餘波を受け船腹の不足にも大きな原因がある。

八月分生産高

八月外領護謨輸入	四八、三八三噸
	二一、三九八噸

その各地別輸入數量を示せば

地名	數
スマトラ	一六九噸
蘭領ボルネオ	一四、一二、三八六噸
	一九五三、一五一噸

爪哇其他	二二七噸
ビルマ	九二噸
佛領印度支那	三四六噸
英領ボルネオ	五四八噸
サラワック	一、六三七噸
暹羅	二、八三七噸
其他	一七四噸
合計	二、三九八噸

本年一月より八月迄外領護謨輸入月別統計

月別	數量
一月	一六、九五六噸
二月	一四、〇四八噸
三月	一九、五七九噸

月	數量
四月	一七、一三六噸
五月	一七、三五〇噸
六月	二三、六一四噸
七月	二六、一〇〇噸
八月	二一、三九八噸
合計	一五六、一八一噸

馬來亞八月船送高（輸出）

「七月〃（七一、八六三〃）」のは、馬來亞護謨生産者連が本年中殺も堅確保せん十六四、五二五噸可クオトタト九〇%を取區域の七二・六%で七月中には殺取區域中七三・一%即ち百三十七萬八千十九英反がクッピングされたのである。六月中は採液が行はれた爲めである。一七月以來一

八月仕向國別を示せば

國名	數量
英國	九、六九五噸
本國	三六、七八〇噸
米國	

月	數量
三月	一、五五六噸
二月	一四〇四八噸
一月	一六、五五六噸

本年一月より八月迄に於ける輸入民間蘇情

情況	數量
合計	二八、三五八噸
其他	一、四四噸
蘭領	二八、三四噸
シンガポール	八、六三四噸
英領マレー	五四、八噸
蘭領印度支那	三四六噸
其他	五二噸
	二二四噸

歐洲各國	九、八六八噸
英領土	五、三七四噸
日本	一、七一七噸
其他	一、〇九一噸
合計	六四、五二五噸

馬來亞に於ける護謨生産が八月割當許可量を超過の增産を示したのは、馬來亞護謨生産者達が本年度の輸出許可クオーター九〇%を確保せんとして、本年中最も廣範圍に亘り護謨採液が行はれた爲めである（七月以來）。

百八十八萬三千七百四十四英反の採取區域中七三・一%卽ち百三十七萬六千八百十九英反がタッピングされたのである。六月中は採取區域の七二・六%で七月中には護謨採取區域總面積の一・三%卽

米國	三六、七八〇噸
英本國	九、六七五噸
各國	一、六八八噸

八月廿四日現在相場

「七月八日以來（七月八日以來）」

馬來亞八月船積高（斜出）	六四、五二二噸
合計	一五、六一八噸
八月一日	二、三七八噸
七月一日	二、六一〇噸
六月一日	二、三六一噸
五月一日	一、九三〇噸
四月一日	一、九一三噸

ち二萬三千九百二英反は全くタッピングされなかつた、而して採取總區域の約二五％は「一部採液不能」として區分されてゐる、從來全然採液されなかつた區域が六月に於ては十萬六千二百三十六英反であつたが、七月には九萬五千四百七十四英反に減少した、それだけ多くタッピングされ自然增產となつたのである。

九月二十七日現在相場

海峽殖民地	現物	二十九仙八分ノ五	
順減少一アルシンガポール	現物	二十九仙八分ノ七	
界在荷二百二十七順減、英本國	先物	二十九仙八分ノ七	
順の增加を示ロンドン	現物	八片四分ノ三	
めである。本年一月より七月に	先物	八片八分ノ七	
十順（前年同ニューヨーク	現物	十八仙八分ノ三	
萬三千三百十三順（前年同期九	先物	十八仙二分ノ一	
一萬三千八百〇五順（前年同期一			

即ち三・一の輸出總量は二・六％の減少に當り、本年中に於ける輸出總量は百八十八萬三千七百四十四英反の割合で減少したのである。

合衆國	六四五二五噸
其他	六一〇六一噸
日本	六七一七噸
英領土	一七三四噸
蘭領東印度	一九八六噸

錫

護謨同様最近錫市場は弱氣の繼續にて、地中海に渦卷く歐洲の政局と、東方の事態益々その需要を高め自然生産も増加されるにも不拘相場は下押、反發を見ない。八月三十一日現在世界錫供給高二萬〇百二十九噸（百二十二噸増加）

海峽殖民地のキャーリー、オーバー三千三百三十二噸（二百七十八噸減少）アルンヘムのは一千六百六十五噸（三百八十三噸増加）世界在荷二百二十七噸減、英本國在荷は三千〇三十二噸で九百三十五噸の増加を示してゐるがこれは新設されたリバープール精煉所の爲めである。本年一月より七月に至る馬來亞生産高は四萬三千二百六十噸（前年同期三萬八千〇四十四噸）蘭領東印度よりの輸入高は一萬三千三百十三噸（前年同期九千八百十九噸）其他よりの輸入高は一萬三千八百〇五噸（前年同期一萬〇九百七十三噸）となつてゐる。

馬來亞八月中錫生產は五千八百十一噸で各地別にこれを示せば

馬來亞聯邦州	五、六三二噸
ジョホール州	七三噸
ケダ州	二八噸
ペラ州	四〇噸
ケランタン州	二噸
トレンガヌ州	二九噸

八月入高二千八百二十一噸月の三千〇八十五噸より二千二百九十八噸の減少であつた、次に本年一月以降八月迄の月別生產統計

一月	五、九九一噸
二月	四、九八四噸
三月	六、四二八噸
四月	五、九九〇噸

一萬三千八百〇五噸（前年同期一萬〇九百七十三噸）となつた。

一九千三百十三噸（前年同期一九千八百十九噸）其他のゴム輸入高は一四十四噸（前年同期三萬八千〇四十四噸）蘭領東印度からゴム輸入高は一萬〇ゴム月に比して亞米利加高が四萬三千二百六噸減の所謂輸入ゴムが減ずるに加へ輸出は米國が二百二十七噸、英本國が二百二十七噸、蘭領東印度（少）（ベルギー）が一千六百六十五噸（三百八十三噸增加）佛蘭西が三千三百三十二噸（二百七十八噸）

〇百二十二噸（加增）

八月三十一日現在錫倫敦高二萬噸相當、倫敦現物は發送されず。

東亞經濟調査局 弘報課

月	噸
五月	五四七四噸
六月	二、六七八噸
七月	五、五〇六噸
八月	五八一一噸
合計	四七、八六二噸
前年同期	四二、七六五噸

八月中外領より輸入高二千八百二十一噸に前月の三千〇八十五噸より二百六十四噸の減少であつた、次に本年一月以降八月迄月別輸入統計を示せば

月	噸
一月	二、六八四噸
二月	二、三八三噸
三月	二、五五三噸
四月	二、五五二噸

四月	二、五五二噸
三月	二、五五三噸
二月	二、三八三噸
一月	二、六八四噸

入稼情況を示す例次の如くなるべし、次列本年一月以降八月迄月別輸入高二百六十四噸の新少なりとす

八月中に於ける輸入高二千八百二十一噸列前月の三千〇八十五噸

前年同期	四、二七六噸
合計	四、七八六二噸
八月	五八一一噸
七月	五五〇六噸
六月	二、六七八噸
五月	五四七四噸
四月	二、〇〇五噸
三月	二、二〇四噸
二月	三、〇八五噸
一月	二、八二一噸
合計	二〇、二八七噸

八月中に於ける外地錫輸入高二千八百二十一噸を各地別に示せば

仕出國	數量
ビルマ	三、九六噸
蘭領東印度	三噸
佛領印度支那	一、九八噸
日本	五七噸
暹羅	二、〇六〇噸
タンガニカ	一〇噸
ウガンダ	二噸

南阿聯邦	七三噸	
支那	二二噸	減少されたゴムは
合計	二、八二一噸	百十七噸となり、

八月中馬來亞よりの船送高（輸出）八千五百三十噸にして、七月は九千三百〇六噸、六月は六千三百九十一噸であつた。

八月中仕向國別次の如し

國別	數量
英本國	七八九噸
米國	六、〇五一噸
歐國	一、〇八一噸
英領土	三一〇噸
日本	二七七噸
蘭領東印度	三噸
其他	一九噸

「日支事變により諸原料品の需要增加を當然みる可きにも不拘八月中馬來亞よりの日本向け護謨及錫の輸出額が減少された、ゴムは七月二千百六十六噸であつたが八月は一千七百十七噸となり、錫は七月四百三十七噸が八月には二百七十七噸と何れも減少した。」

九月二十七日現在相場

シンガポール	現物	百二十六弗
	先物	百三十一弗
ロンドン	現物、	二百五十五磅十五志
	先物	二百五十四磅十五志
ニューヨーク	現物	五十八仙
	先物	〃〃〃〃

Letters To The Editor

27SEP

STRAITS-CHINESE AND THE WAR IN CHINA

What Should The Local Born Community Think ?

HOW do the Straits-Chinese regard the Sino-Japanese war? Opinions in the community differ widely, and many local-born Chinese, who are proud of their British citizenship, now feel that China, the land of their origin, needs their help in her hour of trouble.

Straits-Chinese are baffled; they do not know whether to contribute to Red Cross and relief funds, especially when Nanking reports these donations as being contributions to China's "war chest."

The following letter from a Straits-born Chinese expresses the point of view of those who feel that they should remain aloof from the present conflict:

PROPAGANDA FROM NANKING

To The Editor of The Free Press

Sir,—Since the outbreak of hostilities in China, Malaya has been deluged with Nanking propaganda. Apart from propaganda in the guise of news reports, not a week passes without a Chinese official showing up in Singapore under some pretext or other, and he always seems over-eager to grant interviews.

Since this is natural, in view of the huge Chinese population here, I have no quarrel with Nanking's efforts to woo support from Malayan Chinese in her hour of need.

However, it is not becoming for Malayan-born Chinese, who claim British nationality, to join in the chorus. Mr. Yan Kee Leong's outburst in your issue of September 23 recently does not do any credit to the local-born Chinese. His logic savours of the Japanese school.

"What the Chinese have done by continually remaining loyal and revenue-producing to Malaya is a typical example," he says. How can one remain loyal to Malaya and China at the same time? Can Mr. Yan kindly explain this?

The local-born Chinese have been accused of adopting dual nationality. We shall have to bear this odium so long as there are persons like Mr. Yan in our community. By sitting on the fence, we are doing more harm to ourselves than we can realise at this moment.

Anyone, who has been for some time in this country, can call himself a Malayan. When one talks of Malayan Chinese one lumps together Straits and China-born Chinese. This should not be.

The two are poles apart in their outlook. The opinion of the Straits-Chinese is not necessarily that of the China-born. The real Straits-Chinese are a minority community who enjoy privileges denied to alien Chinese.

What have we to gain by suddenly becoming intensely nationalistic? We have no more ties in China where we are considered as aliens. Our upbringing in Malaya makes us cosmopolitan in our outlook; but some of us, either through imbibing too much of the fiery spirit distilled by propaganda, or through intimidation, have become perfervid nationalists.

When the war fever is in the air temperatures are apt to rise, but when they become normal again the other side of the fence may seem greener.

This may seem a most unfortunate moment to bring up this delicate subject, but all thinking Straits-Chinese must know where they stand at such a time as this.

Our actions do not go unnoticed. The reaction may not come in our time, but our children will reap what we sow now. I do not care what the

HOW do the Straits-Chinese regard the Sino-Japanese war? Opinions in the community differ widely, and many local-born Chinese, who are proud of their British citizenship, now feel that China, the land of their origin, needs their help in her hour of trouble.

Straits-Chinese are baffled; they do not know whether to contribute to Red Cross and relief funds, especially when Nanking reports these donations as being contributions to China's "war chest."

The following letter from a Straits-born Chinese expresses the point of view of those who feel that they should remain aloof from the present conflict:

PROPAGANDA FROM NANKING

To The Editor of The Free Press

Sir,—Since the outbreak of hostilities in China, Malaya has been deluged with Nanking propaganda. Apart from propaganda in the guise of news reports, not a week passes without a Chinese official showing up in Singapore under some pretext or other, and he always seems over-eager to grant interviews.

Since this is natural, in view of the huge Chinese population here, I have no quarrel with Nanking's efforts to woo support from Malayan Chinese in her hour of need.

However, it is not becoming for Malayan-born Chinese, who claim British nationality, to join in the chorus. Mr. Yan Kee Leong's outburst in your issue of September 23 recently does not do any credit to the local-born Chinese. His logic savours of the Japanese school.

"What the Chinese have done by continually remaining loyal and revenue-producing to Malaya is a typical example," he says. How can one remain loyal to Malaya and China at the same time? Can Mr. Yan kindly explain this?

The local-born Chinese have been accused of adopting dual nationality. We shall have to bear this odium so long as there are persons like Mr. Yan in our community. By sitting on the fence, we are doing more harm to ourselves than we can realise at this moment.

Anyone, who has been for some time in this country, can call himself a Malayan. When one talks of Malayan Chinese one lumps together Straits and China-born Chinese. This should not be.

The two are poles apart in their outlook. The opinion of the Straits-Chinese is not necessarily that of the China-born. The real Straits-Chinese are a minority community who enjoy privileges denied to alien Chinese.

What have we to gain by suddenly becoming intensely nationalistic? We have no more ties in China where we are considered as aliens. Our upbringing in Malaya makes us cosmopolitan in our outlook; but some of us, either through imbibing too much of the fiery spirit distilled by propaganda, or through intimidation, have become perfervid nationalists.

When the war fever is in the air temperatures are apt to rise, but when they become normal again the other side of the fence may seem greener.

This may seem a most unfortunate moment to bring up this delicate subject, but all thinking Straits-Chinese must know where they stand at such a time as this.

Our actions do not go unnoticed. The reaction may not come in our time, but our children will reap what we sow now. I do not care what the millions of alien Chinese may think of my opinion. They are birds of passage; I am a true Malayan.

Why work ourselves up to a frenzy just because two nations are fighting out their destiny in the Far East? Were this other than a British colony, would such freedom of nationalistic expression be permitted and would such a heavy drain on the country's wealth be tolerated?—Yours etc.

A STRAITS CHINESE.

Singapore, Sept. 25.

No.

P 1937

昭和　年　月　日

第 65 號

一九三七年九月二十七日シンガポール発行
フリープレス紙

郷間正平

九月三十日

織物輸入割當改正案に關して

海峽殖民地政府が明年一月一日より輸入織物の商社別割當規定を改正が最近頻りに傳へられつゝある、然も同改正案の傳へられる內容が邦商並に一般邦品輸入業者に對して非常に不利なるものであるが爲めにその成行が頗る注目されてゐる。

九月二十八日シンガポール商業會議所半期總會に於て會頭デ、ピロ氏はその報告演說の中に「織物割當のライセンス再交付計畫は目下政府に於いて考慮中で政府は近く詳細を發表するであらうと思ふ。詳細は今のところ秘密とされてゐるが、新計畫は滿足すべき折れ合をなす樣に見受けられ、採澤されたならば本會議所も現在のやり方は不適當だと抗議が出てゐる折柄、滿足するだらうと思ふ」と述べた、尙同報告中に

Services No

Luxury Accom
On British Tr

(From Our Correspondent)
London, Sept. 14 (By Air).
THE trooping season of 1937-38—which is somewhat sketchy because of events in the Mediterra-

trooper-liner ever built for
in the relief season between
and our overseas possessions.
Exclusive of the crew, she
carry in comfort some 1,000
—and more in an emergency

一、今年の上半期は前年中よりも、ワイン、ビール、ブランデーが多く飲まれたゝこれは酒商の販賣發達にもよるが、景氣が好くなつたゝめである。

一、電話料金の度數制に關して屢々電話會社より申請があるが、當分現行制度によるだらう。

三、上半期輸出入總額は二六二、八二五、〇〇〇弗昨年同期より多くなつてゐる。そして一〇九、一八〇、〇〇〇弗の出超である。然し我々の現在の景氣には非常に人工が加へられてゐることは疑ひ得ない、ブームはうまく管理して手に合はなくなるやうなブームを抑制しなければならない。我々は個人と商社とかのみならず國内的に國外的に協力しなければならぬ。

更らに織物割當に關する報告に、輸入に關する統計に就ても自分は滿足だと思つてる、上半期最初の四ケ月はテキスタイルに對する需要は旺盛であつた、商人

は相場の上昇とマンチエスターのデリバリーの遲い爲めに輸入業者の到着荷をどしどし買入れ、又外國から註文した馬來亞への輸送も盛んであつたが、歐洲物テキスタイルの購入せる多數は六ケ月の終り頃にはストックに殘り、多くの外國註文品もまだ續々送荷し來ると信ずべき理由がある。

日本品の値段はマンチエスターものが危險な高値水準に達しデリバリーが遲いのに比して値段も安く、デリバリーも四ケ月もかゝらなかつた。英本國の或種の値段は五月以來保合しながらも若干の低落を示したが、まだまだ日本品に較べると高い。ローカル市場は英本國及日本のリプレースメント、コストよりいつも相當下値にあると報ぜられてゐるが、若しそれが事實であるとすれば、この差額は原價が上ることを止めたり、下り初めた時は自然もつとひどくなるといふ傾向を示すだらう」と。

下略

「附記」

八月馬來亞割當織物各國別輸入高

支那	九四七、四六一
伊太利	二八、五七三
日本	二、八六九、二五二
和蘭	七〇、五九五
蘭領東印度	三六三、四一一
其他	二四六、〇八九
合計	四、五二五、三八一

これを前月に比すれば日本の一、七七四、〇五四碼減少を筆頭に支那六六三、七六〇、蘭印一五三、〇二七、伊太利一一四、〇八九、和蘭二二、〇四三碼を一様に減少し、合體に於て二、七八一、一二六碼の著減を示した。

四三億七一六六三千六百六十六、合計六億六六三千六百六十六、印度一億六〇六千六百六十六、蘭領東印度一億六〇六千六百六十六、日本七億六〇六千六百六十六、合計二億六〇六千六百六十六、其他

蘭領東印度	一億六〇六千六百六十六
日本	七億六〇六千六百六十六
合計	二億六〇六千六百六十六
其他	一億六〇六千六百六十六

八月八日來亞諸當報各國動向輸入高

排日貨の影響

統計局より發表された馬來亞外國貿易統計に依れば對日貿易は既報の如く輸入に於て七月の四百六十萬弗に對し八月は四百六萬弗にして五十四萬弗（一割二分）の減退を示した、又輸出に於て七月の五百四十八萬弗に對し八月は三百八十六萬弗となり百六十二萬弗（二割九分五厘）の減少を見せた、輸入は今次の日支事變に因る排日貨と一般輸入市況不振に基づき、輸出は日本のストリクトな輸入管理の影響に因るものとみられる。輸入品中明かに排日貨の影響減と目される商品にして三萬弗以上の減退を示したものは、馬鈴薯（三萬八千弗減）カーバイト（三萬八千弗減）鉄力板（四萬三千弗減）等で此の外石炭、錫鑛等も激減捺染及染色綿布（十二萬三千弗減）を示した。反對に增加した商品は亞鉛板（六萬七千弗增）未晒木綿

（四萬弗增）人絹布（六萬五千弗增）等である、右の中亞鉛板は見越し輸入に因る增加である、未晒綿布及人絹布は主としてクオータ關係に基くものとみられる。尙絕滅的排日貨の影響を受けたものは鉄力板及カーバイトの二商品で前者は九割五分の減少、後者は九割八分の減少である、九月の對日輸入貿易は相當以上の激減を見るであらう、增減の主要商品十一種の七、八月の輸入高を比較を示せば

品名	單位	七月輸入	八月輸入
鹽干魚	噸	三六七	二八〇
馬鈴薯	〃	一、八四〇	八六三
石炭	〃	八五、三五一	一九、二四一
錫鑛	噸	九五	五
亞鉛板	〃	五六六	一、〇五〇
鉄力板	〃	二六九	八
未晒綿布	碼	五二八、〇〇〇	一、〇七〇、〇〇〇
		一、六二〇、〇〇〇	一三六、〇〇〇
		六五、〇〇〇	二七、〇〇〇
		三六九、〇〇〇	一八五、〇〇〇
		一一六、〇〇〇	七一、〇〇〇
		八九、〇〇〇	一五六、〇〇〇
		四五、〇〇〇	二、〇〇〇
		六一、〇〇〇	一〇一、〇〇〇

品名	單位	第一月 輸入	第一月 輸出	第二月 輸入	第二月 輸出
未晒綿布	碼	二、三七六、〇〇〇	三二五、〇〇〇	一、七七九、〇〇〇	二三五、〇〇〇
綿布	〃	一、二四二、〇〇〇	一四七、〇〇〇	九七三、〇〇〇	一一四、〇〇〇
亞麻布	〃	九五四、〇〇〇	一五四、〇〇〇	二、四〇九、〇〇〇	二一九、〇〇〇
輸出絹布	〃	六八七	三九、〇〇〇	二二	一、〇〇〇
人絹布	〃	二六、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
毛織物	〃	八五、三五一	三六、九〇〇	一八、三二一	一八、〇〇〇
綿織物	〃	一八四、〇〇〇	六五、〇〇〇	八六、三〇〇	二九、〇〇〇
羅紗	〃	三六、〇〇〇	一六、二〇〇	二六、〇〇〇	一三、〇〇〇

ざるべき、律令の主要商品十一種の上半期の輸入高を見るに、前年度の同期に比べ、輸入額の減少したるもの、八種の輸出額の減少したるもの、二種にして、輸出額の減少したるもの、一種にすぎざるに、輸入額の減少したるもの、八種の輸出額の減少したるもの、二種にして、輸入

前總領事刀作謙來星公債募集、支那紙の大童の宣傳難民救濟金募集も最近華僑大衆も乘氣薄となつた。

も長所無論大多も勝優為りやしち。

但蒸汽船と衛星を吸収結合後、其長所の大部分を保存し衛星の長所を

P-11-D

十月十九日

新嘉坡情報

華僑商社の在庫邦品處分問題

北支事變發生とゝもに速くもボイコットを見越して邦品買付を急いだ華僑商社は今日排日貨監察隊の横行に脅され、その在庫品處分の難關に追ひ込まれ破綻に瀕しつゝあるもの多く之が對策につき市内六十餘の商社代表よりなる華僑雜貨商約百名は十月十六日中華總商會に會合、在庫品處分問題の協議がなされた。

烈しき論爭が行はれた後、在庫品並既約定品に限り可成的速かに處分し、十一月一日より一齊に店頭より邦品を除くこととすべしとの意見により、これに對する贊否を決せんとしたるも贊成派多數を制したが、反對派の頑强に、遂に決定を見るに至らず結局今後雜貨の輸入に當つては支那本國、或は英國より仕入れをなすことを申し合せ、各華僑團體より調査委員を選出してこれが取締に當らせることに決定して散會した。

[illegible]

[illegible]、[illegible]の[illegible]の[illegible]の

P-11-d

新嘉坡情報

十月三十日

海峽殖民地政廳統計局の發表によれば馬來亞九月の對外貿易統計

一九三七年九月馬來亞對外貿易統計

總額	一、四五、六五、〇〇〇弗
輸入	六二、四三、一、〇〇〇弗
輸出	八三、二二、五、〇〇〇弗
出超	二〇、七九、四、〇〇〇弗

輸入に於て八月の六千三百六十八萬三千弗に比して百二十五萬二千弗の減少であつたが、輸出は八月の八千七十二萬二千弗に比較して二百五十萬三千弗の增加を示した。

對日貿易に於ては八月中は契約品の入荷により僅かに五十萬の減少に過ぎなかつた輸入は九月に入りてボイコットの影響相當大なるものと見られて憂慮されたにも不拘八十一萬五千弗（二割强）の減

あのように見られた憂慮は不幸にも八十一萬五千弗（二割）の減少であつた。（一部割）入超は八月に入りトロッコの影響相當大きなるものがあつた。

輸出貿易は中旬に於て八月は中旬に於て輸出品の入荷が五十萬の減少であつたが、八月の入荷は二百五十萬三千弗の増加を示した。

輸入は八月の八千七十二萬二千弗に比べ減少であつたが、輸出は八月の六千三百六十八萬三千弗に比べて百二十五萬二千弗の減少であつた。

輸出	二〇七四〇〇〇弗	
輸出	八三二二五〇〇〇弗	
輸入	六二四三一〇〇〇弗	
總額	一四五六五六〇〇〇弗	

東亞經濟調査局　弘　報　課

一九三七年九月　東亞輸出貿易統計

十月三十日

東亞經濟調査局

少に止まつた、これは前月中事變前の契約品入荷が殆んど一巡してゐたことに見れば、ボイコットの影響は差して大きな數字に上つてはゐなかつた。而も前年九月に比すれば僅かに一萬三千弗の減少ではあつたが、漸次影響は増大されるものと見なければならない。

對英輸入に於て前年九月より三百十萬三千弗の増加ではあつたが八月よりは百二十一萬五千弗の減少を示した、一方英領各地よりの輸入は八月より百四十七萬六千弗、蘭領東印度が同じく二十一萬四千弗の共に増加を示してゐた。英本國よりの輸入總額が百二十一萬五千弗を減少してゐることから見ると注目されるところである。

一月以降九ヶ月間累計

輸入	五三五七五七〇〇〇弗	
輸出	七〇五六三二〇〇〇弗	

前年同期に比すれば輸入一億六千二百七十七萬六千弗、輸出二億四千三百四十二萬五千弗の共に増加であつた。

四千三百四十二萬五千弗の共に増加をつゞけた。

前年同期に比べ輸入一億六千二百十七萬六千弗、輸出二億

輸出　一億六三二〇〇〇弗

輸入　五三五四〇〇〇弗

一月以降の月間貿易情況

五千弗を新たに加へたるに過ぎない。英本國よりの輸入總額百二十一萬四千弗の共に増加を示してゐる。英本國、關東廳、東印度諸島、二十一萬四千弗、輸入總額八月以降の月間に於ては百四十七萬六千弗の減少を示した。一、英領各州の輸入總額百二十一萬八千弗に達した。

輸入　前年同期に比べ輸入總額は三百十萬三千弗の増加であつた

九月各國別輸出入額次の如し

	輸入	輸出
英國	九、〇四五、〇〇〇 弗	八、八二〇、〇〇〇 弗
英領各地	一、二七七、〇〇〇	一四、〇八一、〇〇〇
歐洲各國	三、二五四、〇〇〇	一、四〇三、〇〇〇
米國	一、二四〇、〇〇〇	三九、二九四、〇〇〇
日本	三、二四六、〇〇〇	三、八三二、〇〇〇
蘭印	二、〇七一、〇〇〇	二、八三五、〇〇〇
其他	一、三五三、〇〇〇	二、九六〇、〇〇〇
合計	六二、四三一、〇〇〇	八三、二二五、〇〇〇

九月輸出入類別表

輸入

一、食糧、飲料、煙草

累計	一、二四七、三八九、〇〇〇	八三、五一八、〇〇〇	本年迄九ヶ月間前年同期の各月額を示す表	九月	一、九三三、〇〇〇 弗	一、一八四、三九〇、〇〇〇 弗	八、八〇四、〇〇〇	一、一一七、三七六、〇〇〇	八、八六四、〇〇〇	一、一二六、四〇〇、〇〇〇	八、三五八、〇〇〇
一月	一、一四五、〇〇〇	八、三三四、〇〇〇		一月							
二月	一、一一七、三七六、〇〇〇	八、八六四、〇〇〇		二月							
三月	一、一四三、二三八、〇〇〇	八、八四七、〇〇〇		三月							
四月	一、一五七、〇八〇、〇〇〇	八、三五八、〇〇〇		四月							
五月	一、一二六、四〇〇、〇〇〇	八、三五八、〇〇〇		五月							
六月	一、一三八、一八〇、〇〇〇	八、三六七、〇〇〇		六月							
七月	一、一五六、八〇〇、〇〇〇	一一、一七〇、〇〇〇		七月							
八月	一、一四四、〇〇〇、〇〇〇	八、三五一、〇〇〇		八月							
九月	一、一五六、〇〇〇、〇〇〇	八、三三四、〇〇〇		九月							

一、貿易、海外、郵便

輸入

北日輸出入額比較表

	輸入	輸出
合計	六、六四三、〇〇〇	八、六二二、〇〇〇
其他	一、三五三、八〇〇、〇〇〇	六、〇六六、〇〇〇、〇〇〇
蘭領	二、〇〇〇、〇〇〇	六、八三五、〇〇〇、〇〇〇
日本	三、六〇〇、〇〇〇	三、八三六、〇〇〇、〇〇〇
米國	一、二四〇、〇〇〇、〇〇〇	三、〇四二、〇〇〇、〇〇〇
獨逸	三、二五四、〇〇〇、〇〇〇	一、〇四〇、〇〇〇、〇〇〇
英領	一、〇二四、〇〇〇、〇〇〇	一、〇八〇、〇〇〇、〇〇〇
英國	八〇四、五〇〇、〇〇〇 弗	八、八二〇、〇〇〇、〇〇〇 弗

北日各國間輸出入額表（仕出原國及未製品）

仕出原國	總額	輸入	輸出
英國	二、四〇七、〇〇〇、〇〇〇 弗		
英領各地	四、〇五七、〇〇〇、〇〇〇 〃		
歐洲各國	四、一三、〇〇〇、〇〇〇 〃		
米國	一、一五〇、〇〇〇、〇〇〇 〃		
日本	一、八九〇、〇〇〇、〇〇〇 〃		
蘭領東印度	二、七二二、〇〇〇、〇〇〇 〃		
其他	五、八八五、〇〇〇、〇〇〇 〃		
計	一、五七八、八〇〇、〇〇〇 〃		
本年度八月	一、六〇三、〇〇〇、〇〇〇 〃		
前年度九月	一、一二二、五〇〇、〇〇〇 〃		

情	前年度九月	本年度八月
其他	一、二二五、〇〇〇〃	一、六〇三、〇〇〇〃
蘭領東印度	一五、八八五、〇〇〇〃	二、八二二、〇〇〇〃
日本	一八、八〇〇、〇〇〇〃	一、一一五、〇〇〇〃
米國	一一、一五〇、〇〇〇〃	四、一三〇、〇〇〇〃
瑞典各國	四、一三〇、〇〇〇〃	四〇、五〇〇、〇〇〇〃
英領各地	四〇、五〇〇、〇〇〇〃	二四、〇〇〇、〇〇〇弗
英國	二四、〇〇〇、〇〇〇弗	縣
仕出國	仕出國	總額

二、原料及未製品

仕出國	總額
英國	七六、〇〇〇、〇〇〇弗
英領各地	三、六五五、〇〇〇〃
歐洲各國	二、四一四、〇〇〇〃
米國	一、〇九三、〇〇〇〃
日本	二、八二四、〇〇〇〃
蘭領東印度	六、八八五、〇〇〇〃
其他	一、〇一一、〇〇〇〃
計	一九、六八八、〇〇〇〃
本年度八月	二〇、八四五、〇〇〇〃
前年度九月	一〇、七五八、〇〇〇〃

前年度九月	一〇、七五八〇〇〇	〃
本年度八月	二〇、八四五〇〇〇	〃
情	一、六八八〇〇〇	〃
其他地	一、五八〇〇〇〇	〃
蘭領東印度	九、八五九〇〇〇	〃
日本國	二、四一〇〇〇〇	〃
米國	三、二〇〇〇〇〇	〃
獨逸國	二、四〇〇〇〇〇	〃
英領各地	三、六五〇〇〇〇	〃
英國	一、六〇〇〇〇〇	〃
仕出國	繼	弗

二、原料及未製品

三、既製品包によるもの

仕出國	總額
英國	六、五一二、〇〇〇〇弗
英領各地	三、二六〇、〇〇〇〇〃
歐洲各國	二、八一七、〇〇〇〇〃
米國	一、〇九三、〇〇〇〇〃
日本	二、八一六、〇〇〇〇〃
蘭領東印度	六、八一六、〇〇〇〇〃
其他	一、七一三、〇〇〇〇〃
計	二五、〇二七、〇〇〇〇〃
本年度八月	二五、五二〇、〇〇〇〇〃
前年度九月	一七、七一五、〇〇〇〇〃

前年度九月	一、七七一、一五〇〇〇

前年度九月	一、三五五、〇〇〇	〃
本年度八月	二、〇八八、〇〇〇	〃
計	一、一六八、〇〇〇	〃
其他	一、三〇〇、〇〇〇	〃
蘭領東印度	六、四〇〇、〇〇〇	〃
英領各地	三、〇〇〇、〇〇〇	〃
英國	五〇〇、〇〇〇	弗
仕出國	總額	
正貨及金塊		
前年度八月	三、〇〇〇、〇〇〇	〃
八月	五〇〇、〇〇〇	〃
四	七六〇、〇〇〇	弗

輸入出原料及未製品

一、食糧、飲料、煙草

仕向國	總額	
英領各國	五、四五三、〇〇〇	弗
英領各地	二、六四〇、〇〇〇	〃
歐洲各國	三、一五六、〇〇〇	〃
米國	一、五二〇、〇〇〇	〃
日本領東印	二、〇〇〇、〇〇〇	〃
蘭領東印度	一、三五九、〇〇〇	〃
其他	五〇、三七四、〇〇〇	〃
計		
本年八月	四、五一五、〇〇〇	〃
本年度八月	三、五三七、〇〇〇	〃
前年度九月	四、五〇八、〇〇〇	〃

前年度九月	四五〇八〇〇〇〇〇〃
本年度八月	五三三三〇〇〇〇〇〃
其他	一五一四〇〇〇〇〇〃
蘭領東印度	一三一六〇〇〇〇〇〃
日本	二〇〇〇〇〇〇〇〃
米國	一五一二〇〇〇〇〇〃
獨逸國	一五一六〇〇〇〇〇〃
英領各地	二六四〇〇〇〇〇〃
英國	四五一三〇〇〇〇〇弗
仕向國	總額

一、貪辭、煙草、塩草、

鑛出

二、原料及未製品

仕向國	總額
英國	七二六四〇〇〇〇弗
英領各地	五一七七〇〇〇〇〃
歐洲各國	九一六五〇〇〇〇〃
米國	二六一三七〇〇〇〇〃
日本	二二四五〇〇〇〇〃
蘭領東印度	一一三〇〇〇〇〇〃
其他	六五四〇〇〇〇〃
計	五〇七七二〇〇〇〇〃
本年度八月	四九〇八二〇〇〇〇〃
前年度九月	三六一五〇〇〇〇〃

仕向國	英國	英領各地	歐洲各國	米國	日本	蘭領東印度	其他	計	本年度八月	前年度九月
三、既製品										
總額	弗	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
	一、一一〇	一、一六一	一、一八九	一、三五〇	一、一五六	一、一二七	一、一九三	二、六九七	二、五九六	一、六一八
	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇

二、原料及未製品	英國	英領各地	歐洲各國	米國	日本	蘭領東印度	其他	計	本年度八月	前年度九月
輸出	弗	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
	一、四九〇	一、一七九	一、一八六	一、一五八	一、一四〇	一、一二五	一、一〇九	二、六九〇	二、五九〇	一、六一〇
	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇

前年度九月	一六一八五〇〇〇	〃
本年度八月	二五八六八〇〇〇	〃
情	二六八四〇〇〇	〃
其他	一八三一〇〇〇	〃
蘭領東印度	一二四五〇〇〇	〃
日本	一五六四〇〇〇	〃
米國	一三〇〇五〇〇〇	〃
瑞西各國	一八八四〇〇〇	〃
英領各植	六一八二〇〇〇	〃
英國	一一〇三〇〇〇	〃
仕向國	縣	弗

三　郵便小包による郵便

前年度九月	一六七〇〇〇	〃
本年度八月	二〇六〇〇〇	〃
四　郵便小包による郵便	一八五〇〇〇	弗

萬七千四百十四順にして、八月の馬來亞九月中の護謨輸出額は大萬七千八百八十九順の增加を示したが、九月は四千四百四十九順の減少である。

本年度銀貨及金銀月に至る各月の輸出額を示せば

仕向國	輸出順數總額	
英領各地	四一七七七二〇〇〇	弗
蘭領東印度	三八〇五七一〇〇〇	〃
其他	五九五六八一〇〇〇	〃
計	五八七一四四〇〇〇	〃
本年度八月	五一一一三〇〇〇	〃
前年度九月	五四八四二〇〇〇	〃

前年度八月	四二〇、〇〇〇

七月	七、八六三噸	
六月	五四、八〇六〃	〃〇〇〃
五月	五一、一五二〃	〃〇〇〃
四月	五八、一八〇〃	〃〇〇〃
三月	五六、八八六〃	〃〇〇〃
二月	三八、〇五八〃	〃〇〇〃
一月	四一、七一一噸	〃〇〇〃
別月	鑛出廠總	鑛出廠總

本年度一月より七月に至る各月の鑛出額を示す。

次で、七月の七萬一千八百六十三噸は比較的に四千四百四十六噸の減少であつたが、八月の六萬四千五百二十五噸に於ては二千八百八十八噸の增加を示した。過去六月中の鑛出額は六萬七千四百十四噸で、八月の鑛

八月	六四、五二五噸	
九月	六七、四一四〃	
累計	五〇七、六七八〃	萬九千〇六十五噸にして、六月最
前年度同期	三八七、六八七〃	一途を辿つた。今次に一月以降の

過去九ヶ月に於ける輸出額は前年同期より十一萬九千九百九十一噸の激增であつた。

九月各國別輸出表

國別	輸出額
英國	八、三三九噸
米國	三九、五一四〃
歐洲各國	一一、〇七四〃
英領各地	六、五九二〃
日本	一、一八〇〃

日本	一一八〇〇〇〇	〃
英領各植民地	六五五二〇〇〇	〃
獨逸領各國	一一〇〇四〇〇	〃
米國	三六五一四〇〇	〃
英國	八三三六〇〇〇	〃
他國		
合計	六七、四一四〇〇〇	〃

六月分國別輸出表

九月中の輸出額は一億一千一百六十一萬六千六百六十一〇〇〇〇

月別	鋼入數量を示す
八月	二、三六五噸
十月	二、六一〇〃
六月	二、三六一四〃
五月	一、七三五四〃
四月	一、七一三六〃
三月	一、六五七四〃
二月	一、四〇四八〃
一月	一、六六五六噸
鋼入總量	六、七四一四〃
其他合計	十一、五一四〃

鋼入總量を示す別表

高岸鋼入數量は漸次の一途を辿つた。今次の一月以降の鋼入數量は、六月中の鋼入總量が一萬六千〇六十五噸に上り、六月以降の鋼入數量

月	他
九月	一、九〇六五噸
累計	一七、五二四三〃
前年度同期計	一二、八一五八〃

九月各地別外領護謨輸入表

仕出地	輸入數量。
スマトラ	八、八四〇噸
爪哇其他	九三七〃
蘭領ボルネオ	三、一五〇〃
ビルマ	九五〃
佛領印度支那	二五二〃
英領ボルネオ	三一六〃
仝サラワク	二、六七二〃
暹羅	二、七九九〃

ニューヨーク現物一七仙八分五

羅	二七七	〃
仝	二六七二	〃
英領ボルネオ	三一六	〃
蘭領東印度	二五二	〃
〃	八五五	〃
蘭領ボルネオ	三一五〇	〃
仏領印度	八三七三	〃
〃	八八四〇	〃
出廻仕	鋼入總量	

北日各地船舶外國輸入表

前年度同期	一二八一五八	〃
累積	一七七二四三	〃
北月	一九〇六五〇	〃

其他　四〃

合計　一九〇六五〇〃

日支事變發生以來世界の混迷により「ヂリヂリ」下押を續け來つた護謨價は九月上旬三十仙八分の三であつたが月末に至り二十九仙臺を割り二十八仙八分の五に下落した。

九月三十日相場

シンガポール

現物　二八仙八分五
先物　二九仙八分一

ロンドン

現物　八片二分一
先物　八片八分五

ニューヨーク

現物　一七仙八分五

九月中馬來亞護謨生産額四萬六千四十七噸に達した、馬來亞九月の生産制限割當額は四萬四千百七十五噸であつて、千八百七十二噸の增加を示した、一月以降九ケ月間の生産額三十六萬六千八百九十二噸、九月迄の割當獲得額は三十六萬七百六十二噸にして割當額超

二噸、九月の定月積當雖得船三十六萬七百六十二噸に上り當雖得船の間の生産量三十六萬六千八百九十、一月以降九月の增加を示し、九月中現來亞麻生産量四萬六千四百七十五噸に達し、九月中現來亞麻生産量四萬六千四百七十二噸に達したるものにして

先物　一二五二磅一五志　現物　一二五六磅　五志

先物　一二五四磅一五志

ニューヨーク

現物　五八仙

五分八仙八五　現物

ニューヨーク

先物　一二六〇磅一五志

ロンドン

先物　一二五二磅一五志　現物

ロンドン

先物　一二六〇磅一五志　現物

ニューヨーク

先物　五八仙八五　現物

先物は相場の上昇に伴ひ、現物は逆に下落の一途を辿り、遂に現物と同様逆ざやとなる。

ロンドンは、月末の旬の上昇に伴ひ、現物は逆に下落の一途を辿り、遂に現物と同様逆ざやとなる。

ニューヨークは、月末の旬

（貿易月報は毎月一回發行する。）

定價	一箇年金五圓
郵稅	一箇年金六錢
郵稅	一箇年金二錢
郵稅	一箇年金六錢

郵稅	一箇年金二錢
郵稅	一箇年金六錢

ニューヨーク　ノーロッパ　編輯部　上海

p-11-d

新嘉坡情報

馬來亞＝香港間航空路の變更

十一月六日

和蘭航空會社との競爭を目指してロンドン＝馬來亞間の快速化計畫を實現せんとしつゝある英國インペリアル航空會社は、今回更らに馬來亞＝香港航空路を變更し、ロンドン＝香港間の快速化が近く實現される。去月同社操縦士バランチン氏はピナン＝香港間就航機デルビヌス號によつて變更新線調査のため佛領印度支那及暹羅兩國の飛行場六ケ所を調査した結果、馬來亞（ピナン）＝香港間現在の定期線を變更し得ること確實と傳へられる。

バランチン氏の調査報告によれば、右新線が決定されれば現在の馬來亞＝香港定期航空路はピナン發を變更してバンコックを基點とし、ロンドン＝シンガポール線と連絡して、ロンドン＝香港間の飛行所要日數の短縮、即ち快速化が實現される。

所要日數の數倍、時間を節約し、能率を増進する。

飛行機の間非常に進歩し、ロンドン＝ケープタウン＝ロンドンの往復は僅かに一週間を要するに過ぎない。亜米利加合衆國政府は更に一層進歩し、ロンドン＝ケープタウン＝ロンドンの往復を一日に縮めんとの目的を以て、目下鋭意研究中である。

この研究の結果が完全に成功すれば、世界の航空界は更に一層の飛躍をなし、遠隔地の間の旅行は、僅かに數日を要するに過ぎない。

（ケンセン）＝香港間の航空路は、亜米利加合衆國政府及亜米利加合衆國航空會社の共同經營に成る。

（ケンセン）＝香港間の航空路は、亜米利加合衆國政府及亜米利加合衆國航空會社の共同經營に成る。

亜米利加合衆國政府は、更に一層進歩して、ロンドン＝香港間の航空路を開設し、亜米利加合衆國航空會社は、更に一層進歩して、ロンドン＝香港間の航空路を開設し、亜米利加合衆國政府は、ロンドン＝香港間の航空路を開設し、亜米利加合衆國航空會社は

P-11-d

本品取扱外人商社全体の重大なる關心事であつた。

傳へられるところによれば、日支事變の解決ポイントは如く撤回されるならば、日支事變の飛躍を見るであらう。

一二、一一、一九

新嘉坡情報

織物輸入商社別割當法案撤回

「日本との磨擦を懸念してと云ふ」

海峽殖民地政府が本年九月その貿易關係の諮問機關たる貿易委員會の非公式承認を經たる上、シンガポール歐洲人商業會議所その他に提示、意向を求めつゝあつた織物輸入割當法中商社別輸入許可割當法案は、日本人商工會議所、印度人商業會議所その他日本織物輸入業者の各團体の反對と、日支事變の進展により歐洲人當業者間に現下の情勢に鑑み、この際日英間に尖鋭化するが如き行爲は避くべしとの意見有力となり、政府統計局より貿易委員會に對し、右法案を撤回する旨非公式に通知があつたと傳へられた。

右法案の實施は日本の既得貿易並に現地輸入業者の商權を根底より覆滅するものである、從つて成行きに關しては日本人當業者及日

日本人商業者及日本人商工會議所に對し、日本の貿易品の新に現地商業者の商業を開始する場合非公式に通知あつたことは、日本の貿易品の輸入に關する問題に對する日本の意見を、日本の貿易品委員會に對し、支那政府、日本人商業者間に於ける輸入業者の代表者の代表者に對する、日本の貿易品の輸入に關する問題に對する日本の意見を、日本人商工會議所、日本人商業會議所の日本人商業者の代表者に對する、日本の貿易品の輸入に關する問題に對する日本の意見を、

イ 終息後日本雑貨出資輸出品一切の解禁を原さるべきである。

ビルトモ、水産事業の発展、日支事業の開拓、如何なる困難にあるべき筈

本品亦陸人商人外の重大なる関心事たるべしである。

p-II-d

昭和十二年九月三日

新嘉坡情報

一九三七年度上半期世界錫消費量

「國際錫協會々報」

一九三七年度上半期に於ける世界錫生産額は九二、三〇三噸にして、消費額は九四、八六二噸に達し生産に比して二、五五九噸の超過であつた、昨年同期に比較すれば生産九、四一五噸、消費量に於て一四、九四四噸の夫々増加を示してゐる。

本年六月迄の一ヶ年間の世界生産額は合計實に一八七、七七九噸となり、消費額は前年度の一七七、三八四噸に對して一二、七%の増加であつた。

各國別に錫消費額を示せば

	一九三七年六月迄一ヶ年	一九三六年六月迄一ヶ年		
消費國			増減	
米國	八三、三七六	六九、七四〇	増加	一九・六%
英本國	二四、三六二	二一、七八九	増	一一・八%

英國	二四三六二	二一八八	增一一・八%
米國	八三三四六	六六四〇	減一〇・六%
消費國	一〇三六四三六	一〇三六四三六	增減

各國間の消費額を示せば左の如くである。

消費額は前年に比べ一一・八%の増加であつた。本年六月迄の一ヶ年間の世界生産額は合計一八六七四〇〇〇噸に達した。その一ヶ年間の世界消費量は一八六七四〇〇〇噸に達した。

一、消費額は前年に比べ一一・八%の増加であつた。

一、生産額は前年に比べ一〇・六%の減少であつた。

一、世界総消費量

昭和十二年六月三日

ソ聯	一一、七六八	七、七三五	增五二・一%
獨逸	一〇、四七三	八、九一八	增一七・四%
佛國	九、六六〇	九、三三二	增三・五%
日本	八、二八八	六、三五〇	增三〇・五%
其他	二九、四五七	三三、五五〇	減一二・二%
合計	一七七、三八四	一五七、四二一	增一二・七%

（單位　噸）

右統計の示す如くソ聯を筆頭に日本、米國、英本國獨逸各國共に消費増加の著しきものがある、其他の諸國中和蘭、チエツコスロバキア、波蘭、ユーゴースラビア及南阿等も亦消費増加の傾向を示してゐる。

本年六月迄一ヶ年間の世界武力板生産高は四、〇三八、〇〇〇噸に達し前年同期の三、三一三、〇〇〇噸に比較して二二%の増加であつた、

世界自動車工業に於ても前年度の五、四八五、〇〇〇台に對して六、二〇七、〇〇〇台に增加してゐる。

本年七月中の英本國に於ける錫消費額は二、七二三噸にして六月分の二、八四一噸に比すれば幾分の減少であるが、昨年七月の一、七〇一噸に對して一、〇〇〇噸餘の增加となつてゐる、和蘭に於ける本年七月の消費額は一二〇噸にして六月は一一〇噸、然るに前年七月は僅かに五七噸であつた。

米國に於ける本年七月中の武力板生產高は一九五、〇〇〇噸に達し六月中の一九〇、〇〇〇噸に比して五、〇〇〇噸の增產をみたのである。

本年七月中の世界錫在庫高は二五、〇四二噸で前年七月の一五、九六四噸に比較して四、〇七八噸の增額を示してゐる、一ケ年間の消費額に對する在庫高の比率は前年七月の一〇%に對して本年七月は一四・一%に增加してゐる。本年七月に於けるスタンダード錫の平均現金値段は二六三磅一四志一片で六月は二四九磅一九志一一片であつた。

以上

J前年同期の三、三一六、〇〇〇噸に比べて二、二〇〇、〇〇〇噸の增加となつた。

本年六月末現在世界の國別錫在庫高は四、〇三八、〇〇〇噸に達してゐる。

（單位　噸）

	增減	增減
合計	一、二〇〇・〇〇〇	一五、九六四・〇〇〇
其他	一、二〇〇・〇〇〇	三、三五五・〇〇〇
日本	三〇・〇〇〇	六、三五〇・〇〇〇
蘭領東印度	四〇・〇〇〇	九、三三二・〇〇〇
英國	一、四〇〇・〇〇〇	八、一八一・〇〇〇
馬來聯邦	一、一〇〇・〇〇〇	一、一〇〇・〇〇〇

ヶ月間の增減を差引き日本、米國、英本國、蘭領各國共に增加の傾向を示してゐる、其の增加の著しきものとしては蘭領東印度の增加、キエヤロスロスの蘭領中印度、マレーシアの馬來聯邦、英國、和蘭、ニューヒーブリデスの順序である。

上図のもしも。

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

p-10-d

新嘉坡情報

十二、十二、十七

織物割當修正案決定

一九三七年十二月十五日立法會議

既報の馬來亞に於ける織物既製品に對する割當を適用せんとする織物輸入割當法修正第四號法案は第四八號信にて報告せる新嘉坡要塞强化に關する四法案と共に一括して十二月十五日開かれたる海峽殖民地立法會議に上提、何等の論議無しに通過可決された。直ちに同日官報號外第一〇九號をもつて公布された。

尙同日の會議に於いて、市法修正第二號案が通過、ピナン港内に於ける航空旅客機着水の安全を期するため同港内の小舟を取締るピナン港規定修正案も通過可決、明年度シンガポール市財産評價及課稅二分引上げも承認された、この他にアジア人及混血人官吏の住宅建設問題調査の委員會設置、長期勤續官吏の三分の一を年々退職せし

むることに規定してある市條令第十四條はシンガポール・ルーラル・ボードに對しては適宜加減を加ふべき旨の保證がなされた。

以上

ホーキンス氏は宜敏地方を視察し、その結果市場合併十四箇所の目的を以て、ホーキンス氏は宜敏地方を視察し、その結果市場合併十四箇所の目的を以て、

p-11-d

新嘉坡情報

綿、人絹既製品に對する割當制

「目標は瞭かに日本に在る」

海峽殖民地政府は前報の織物割當新條例を發布の直後、十二月三日更らに綿、人絹既製品に對して割當制適用の聲明書を發表した。

「現在の情況に於いて、英本國政府は通商に新たな制限を附すると解釋される所の如何なる手段をも常に不本意とするものである。これは一般の認めてゐることだらうと思ふ。同時に英本國政府は過去に於いて英帝國植民地の或る部分に加へるべく餘儀なくされた所のクオータ制が効果がないことを重視し、不本意ながらこのハツプニングを防止する爲めには左の商品が馬來亞に於てクオータを附することが必要であると云ふ結論に達したのである。

即ち

一、木棉及人絹の外衣（アウター・ガウメント）

一、木棉下着（アンダー・ウエアー）

一、人絹下着

而して割當賦課に關して政府は相當の期間、之等商品の貿易に當つてゐた諸外國に對し迷惑を與へない所の一つの基礎を定めんと希望してゐた。以上三種類に決められた基礎は各國よりの輸入額が一九三二年より一九三六年に至る間の平均輸入額を超過せざることゝし、且つ一九三二年より一九三六年の間に各方面より輸入された總量平均の五%の最小限を附せる。この割當は一九三八年一月一日より効力を發生し、且つ第一クオーターはその期間を一九三八年末を以て終りとする十二ヶ月間とすべしと提案されてゐる。

尚一九三七年十二月二日乃至それ以前に注文又は船積され、一九三八年一月一日以前又はそれ以後に輸入されたる商品は登錄官

の認定を得れば制限より除外される。然しその商品は生產國證明のクオターに記入される筈である。若し一九三八年のクオーターが超過した場合、超過量は次期のクオーターから差引くことになる。

既製品（半製品をも含む）クオーター

外衣（木棉及人絹）

日本	一〇、五九三ダース
支那	三、五二九ダース
蘭領東印度	一〇、二四〇ダース
其他各國	一、四六四ダース

木棉下着

日本	三八一、八四五ダース
支那	一〇六、三七〇ダース
其他各國	三六、五七八ダース

人絹下着

日本　二八、一〇二ダース

其他各國に對しては　一、五五六ダースを「ライセンス」が發給される。而し右の統制織物は木棉、人絹又は木棉人絹交織の重量が五〇％以上を含む商品を意味する。

これに對して十二月十五日必要なる立法手續をなす筈。

以上この三種類輸入ライセンスを必要とする者は十二月二十三日以前にアプリケーションを提出されたい、而してライセンス發給は次の諸國に制限される。

一、木棉及人絹外衣

日本、支那、蘭領東印度。

一、木棉下着

日本、支那。

其他各國　三六五、七八八ダース

支那　一〇六、三一〇ダース

日本　三八、八四五ダース

木綿下着

其他各國　一、四六四ダース

蘭領東印度　一〇、二四〇ダース

支那　三、五二六ダース

日本　一〇、五六三ダース

代替（木綿及人絹）

過剰品（半製品を含む）ゲートルを含むこと。

右の場合、過剰量は次の通りである。

ゲートル　一、八三八ダース

ゲートルの場合は、過剰量は次の通りである。

一、人絹下着

日本。

右以外の諸國に對しては「無制限ライセンス」が發給される、而して以上の「制限ライセンス」のアプリケーションは一九三五年及一九三六年中にアプライされた特種國よりの織物の特物の輸入業者以外には與へられない。

右に對する登錄官より當業者に發したる通告文の內容は、

一、政廳は十二月三日附既製織物商品の中、木棉及人絹の外衣並に下着に對し織物（割當）法を延長するやも知れずと聲明せり、之により既製及部分既製の三種類を外國より輸入すべきライセンスを申込まんと欲する者は十二月二十三日までに織物登錄局に申請すべきことを通告す。

一、ライセンスの發行は左の諸國に「制限」せらるべき豫定なり

木棉及人絹外衣

日本、支那。

一、木綿下着

日本、支那、蘭領東印度。

一、木綿及人絹外衣

蘭領印度のみ。

以上の三種類の人モトサンスを必要とする者は十二月二十三日以前に出願せられたるべし、而してライセンスは一九三六年中に輸入されたる品物に對してのみ發給せらるる立法手續をとる者。

日本、支那、蘭領東印度。

一、木綿及人絹外衣

蘭領印度のみ。

以上の三種類の人モトサンスを必要とする者は十二月二十三日以前に出願せられたるべし、而してライセンスは一九三六年中に輸入されたる品物に對してのみ發給せらるる立法手續をとる者。

日本、支那、蘭領東印度。

一、木綿下着

日本、支那、蘭領東印度。

木棉下着　インス申請者はその申込書に過去三ケ年に於ける商品到着日日本、支名那。

人絹下着　すべし、この通告を受くべく申込書のリストより除外せられるやも日本。考慮を受くべく申込書のリストより除外せられるやも

上記各國以外の諸外國に關しては「無制限」ライセンスを發行すべし、制限ライセンスに關する申込書は一九三五年及一九三六年中に出願せる特定の國より規定の織物を輸入してゐた輸入業者に非ざる者に對しては考慮せられざるべし。

一、他の各國（制限國を除いた）よりの上記種類の織物輸入に關しては、若し一國一種類の申込書がスケジュールに加へられざる國のその種類に許されたるクオータを超過した場合、そのライセンスは「制限」せらるべし、而してライセンス下附の優先權は一九三五年及一九三六年の間にその國より前三種類の織物を

輸入したる輸入業者にのみ與へらるべし、

一、ライセンス申請者はその申込書に過去二ヶ年に於ける商品到着の日附及船名を附し何國より何種類の織物を輸入せるかを詳細に記入すべし、この通告を怠るものは恐らく上記スケジュールに就て考慮を受くべく申込書のリストより除外せられるやも知れず、且非スケジュール國に關する申込の優先權をも喪失するやもはかられず、

一、國別による申込書は別々の申込書を提出すべきこと、申込書は一九三五年及一九三六年に輸入に當りたる者の氏名に於てなすべきこと、若し商社、商店、パートナーショップ（二人以上共同經營の場合）及協會の名に於いてなす場合にはライセンスを發行さるべき適當と思惟さる者の氏名を以てなすべし、

一、一九三八年度ライセンス料は商品一ダースにつき一仙、最少限度一弗とす、この料金はライセンス發行の時に金額を支拂ふべし

輸入したる輸入業者にのみ與へらるべし、

一、ライセンス申請者はその申込書に過去二ヶ年に於ける商品到着の日附及船名を附し何國より何種類の織物を輸入せるかを詳細に記入すべし、この通告を怠るものは恐らく上記スケジュールに就て考慮を受くべく申込書のリストより除外せられるやも知れず、且非スケジュール國に關する申込の優先權をも喪失するやもはかられず、

一、國別による申込書は別々の申込書を提出すべきこと、申込書は一九三五年及一九三六年に輸入に當りたる者の氏名に於てなすべきこと、若し商社、商店、パートナーショップ（二人以上共同經營の場合）及協會の名に於いてなす場合にはライセンスを發行さるべき適當と思惟さる者の氏名を以てなすべし、

一、一九三八年度ライセンス料は商品一ダースにつき一仙、最少限度一弗とす、この料金はライセンス發行の時に金額を支拂ふべし

尙右割當法は更らに一般既製品にまで及ぼされるものと傳へられる。この法案は來る十二月十五日立法院の審議によつて決定せられるものであるが、その通過は確定的のものである、斯くしてこの織物割當法實施の日シンガポールの誇りであつた自由港の名稱は消滅するものである、何故政府はこの擧に出たか、それは從來の割當被りとして蚊帳、浴衣その他の既製品として輸入されるものが、一本の糸を拔くと一反の反物に變り或は長尺の綿、人絹布と化けて取引されたものが非常に多量に上つた、その對策とみられる。

一般業者は下着（アンダーウエアー）と外衣（アウターガウメント）の名稱が漠然たる爲め相當困惑してゐる。

更らに政府の意向の一つとみられべきは、今次の日支事變の解決とボイコットの終息後に來る急速なる日本商品の浸入を見越して斯くの如き法例を出し日本商品を壓せんと計つたものである。

如何に英國政府はその總ての智能を動員して日本商品制壓を謀つ

ても、購買力の弱い一般大衆は日本商品より十割乃至十五割の高價なる歐洲商品に乘り替へ得られない、結極購買大衆は欠けた茶腕、破れた衣をつくろつて、安價な日本商品の入り來るを待つ（ボイコット終息）安價な商品の制壓は領内土民の生活を脅壓するものである。

内生産の所得を得るものである。

商品の輸入制限は安價な商品の販賣を妨げるものである。

日本商品の人氣は來るべき特惠關稅の撤廢、買入價の一般大衆への普及に伴ふ市場の擴張である。

日本商品は十月五日の關稅の高價

p-2-d

十二、十二、三〇

新嘉坡情報

一九三七年度十一月馬來亞對外貿易

馬來亞十一月對外貿易は

輸出入總額	一一六、九三五、〇〇〇弗
輸入	五四、五八二、〇〇〇弗
輸出	六二、三五五、〇〇〇弗
出超	七七七、〇〇〇弗

十一月は歲末とクリスマスを前に控へたため輸入に於いて前月より百四十萬弗を增加した、これに對して輸出はその大宗輸出品たる護謨及錫の輸出減少、市價の低落によつて一千九十五萬五千弗餘の激減を示した。而してこれを前年度同期に比較すれば輸入六百九十二萬八千弗の增加であるが、輸出は百九十九萬七千弗の減少である。

輸出入輸に入年度に比して著しい増加を示し、更らに一九五六年度一ヶ年の十一月頃六三八七六八千五百五十八万〇〇〇弗一月末に於いて突破し十一月年度輸貿易額は一五五一二万〇〇〇弗を記録され一九三〇年以前年度高記録を再現する四七六五百〇〇〇弗。

輸出	
十一月	六二五五〇〇〇弗
十月	七五五〇八〇〇〇弗
前年度十一月	六四五五〇〇〇〇弗

本年度一月以降十一ヶ月の総額

輸入	六四五四六〇〇〇弗
前年度同期	四六四一四九〇〇〇弗
輸出	八四〇二九五〇〇〇弗
前年度同期	五七九二六七〇〇〇弗

二億八千万弗の輸出超過を記録した。

輸出入貿易額の第二位は西独の一億七千五百万弗で、第三位は英国の一億六千五百万弗、第四位は日本の一億五千五百万弗、第五位は伊太利の一億五千万弗、第六位は仏蘭西の一億四千五百万弗、第七位は和蘭の一億四千万弗、第八位は白耳義の一億三千五百万弗、第九位は瑞西の一億三千万弗、第十位は瑞典の一億二千五百万弗、第十一位は墨西哥の一億二千万弗、第十二位は伯剌西爾の一億一千五百万弗、第十三位は印度の一億一千万弗、第十四位は西班牙の一億〇千五百万弗、第十五位は土耳古の一億〇千万弗、第十六位は丁抹の九千五百万弗、第十七位は葡萄牙の九千万弗、第十八位は諾威の八千五百万弗、第十九位は希臘の八千万弗、第二十位は亜剌比亞の七千五百万弗、第二十一位は亜剌伯の七千万弗、第二十二位は亜剌比亞の六千五百万弗、第二十三位は亜剌伯の六千万弗、第二十四位は亜剌比亞の五千五百万弗、第二十五位は亜剌伯の五千万弗、第二十六位は亜剌比亞の四千五百万弗、第二十七位は亜剌伯の四千万弗、第二十八位は亜剌比亞の三千五百万弗、第二十九位は亜剌伯の三千万弗、第三十位は亜剌比亞の二千五百万弗、第三十一位は亜剌伯の二千万弗、第三十二位は亜剌比亞の一千五百万弗、第三十三位は亜剌伯の一千万弗、第三十四位は亜剌比亞の九百万弗、第三十五位は亜剌伯の八百万弗、第三十六位は亜剌比亞の七百万弗、第三十七位は亜剌伯の六百万弗、第三十八位は亜剌比亞の五百万弗、第三十九位は亜剌伯の四百万弗、第四十位は亜剌比亞の三百万弗、第四十一位は亜剌伯の二百万弗、第四十二位は亜剌比亞の一百万弗、第四十三位は亜剌伯の九十万弗、第四十四位は亜剌比亞の八十万弗、第四十五位は亜剌伯の七十万弗、第四十六位は亜剌比亞の六十万弗、第四十七位は亜剌伯の五十万弗、第四十八位は亜剌比亞の四十万弗、第四十九位は亜剌伯の三十万弗、第五十位は亜剌比亞の二十万弗、第五十一位は亜剌伯の一十万弗、第五十二位は亜剌比亞の九万弗、第五十三位は亜剌伯の八万弗、第五十四位は亜剌比亞の七万弗、第五十五位は亜剌伯の六万弗、第五十六位は亜剌比亞の五万弗、第五十七位は亜剌伯の四万弗、第五十八位は亜剌比亞の三万弗、第五十九位は亜剌伯の二万弗、第六十位は亜剌比亞の一万弗、第六十一位は亜剌伯の九千弗、第六十二位は亜剌比亞の八千弗、第六十三位は亜剌伯の七千弗、第六十四位は亜剌比亞の六千弗、第六十五位は亜剌伯の五千弗、第六十六位は亜剌比亞の四千弗、第六十七位は亜剌伯の三千弗、第六十八位は亜剌比亞の二千弗、第六十九位は亜剌伯の一千弗、第七十位は亜剌比亞の九百弗、第七十一位は亜剌伯の八百弗、第七十二位は亜剌比亞の七百弗、第七十三位は亜剌伯の六百弗、第七十四位は亜剌比亞の五百弗、第七十五位は亜剌伯の四百弗、第七十六位は亜剌比亞の三百弗、第七十七位は亜剌伯の二百弗、第七十八位は亜剌比亞の一百弗、第七十九位は亜剌伯の九十弗、第八十位は亜剌比亞の八十弗、第八十一位は亜剌伯の七十弗、第八十二位は亜剌比亞の六十弗、第八十三位は亜剌伯の五十弗、第八十四位は亜剌比亞の四十弗、第八十五位は亜剌伯の三十弗、第八十六位は亜剌比亞の二十弗、第八十七位は亜剌伯の一十弗、第八十八位は亜剌比亞の九弗、第八十九位は亜剌伯の八弗、第九十位は亜剌比亞の七弗、第九十一位は亜剌伯の六弗、第九十二位は亜剌比亞の五弗、第九十三位は亜剌伯の四弗、第九十四位は亜剌比亞の三弗、第九十五位は亜剌伯の二弗、第九十六位は亜剌比亞の一弗、第九十七位は亜剌伯の九千弗、第九十八位は亜剌比亞の八千弗、第九十九位は亜剌伯の七千弗、第百位は亜剌比亞の六千弗、第百一位は亜剌伯の五千弗、第百二位は亜剌比亞の四千弗、第百三位は亜剌伯の三千弗、第百四位は亜剌比亞の二千弗、第百五位は亜剌伯の一千弗、第百六位は亜剌比亞の九百弗、第百七位は亜剌伯の八百弗、第百八位は亜剌比亞の七百弗、第百九位は亜剌伯の六百弗、第百十位は亜剌比亞の五百弗、第百十一位は亜剌伯の四百弗、第百十二位は亜剌比亞の三百弗、第百十三位は亜剌伯の二百弗、第百十四位は亜剌比亞の一百弗、第百十五位は亜剌伯の九十弗、第百十六位は亜剌比亞の八十弗、第百十七位は亜剌伯の七十弗、第百十八位は亜剌比亞の六十弗、第百十九位は亜剌伯の五十弗、第百二十位は亜剌比亞の四十弗、第百二十一位は亜剌伯の三十弗、第百二十二位は亜剌比亞の二十弗、第百二十三位は亜剌伯の一十弗、第百二十四位は亜剌比亞の九弗、第百二十五位は亜剌伯の八弗、第百二十六位は亜剌比亞の七弗、第百二十七位は亜剌伯の六弗、第百二十八位は亜剌比亞の五弗、第百二十九位は亜剌伯の四弗、第百三十位は亜剌比亞の三弗、第百三十一位は亜剌伯の二弗、第百三十二位は亜剌比亞の一弗、第百三十三位は亜剌伯の九千弗、第百三十四位は亜剌比亞の八千弗、第百三十五位は亜剌伯の七千弗、第百三十六位は亜剌比亞の六千弗、第百三十七位は亜剌伯の五千弗、第百三十八位は亜剌比亞の四千弗、第百三十九位は亜剌伯の三千弗、第百四十位は亜剌比亞の二千弗、第百四十一位は亜剌伯の一千弗、第百四十二位は亜剌比亞の九百弗、第百四十三位は亜剌伯の八百弗、第百四十四位は亜剌比亞の七百弗、第百四十五位は亜剌伯の六百弗、第百四十六位は亜剌比亞の五百弗、第百四十七位は亜剌伯の四百弗、第百四十八位は亜剌比亞の三百弗、第百四十九位は亜剌伯の二百弗、第百五十位は亜剌比亞の一百弗、第百五十一位は亜剌伯の九十弗、第百五十二位は亜剌比亞の八十弗、第百五十三位は亜剌伯の七十弗、第百五十四位は亜剌比亞の六十弗、第百五十五位は亜剌伯の五十弗、第百五十六位は亜剌比亞の四十弗、第百五十七位は亜剌伯の三十弗、第百五十八位は亜剌比亞の二十弗、第百五十九位は亜剌伯の一十弗、第百六十位は亜剌比亞の九弗、第百六十一位は亜剌伯の八弗、第百六十二位は亜剌比亞の七弗、第百六十三位は亜剌伯の六弗、第百六十四位は亜剌比亞の五弗、第百六十五位は亜剌伯の四弗、第百六十六位は亜剌比亞の三弗、第百六十七位は亜剌伯の二弗、第百六十八位は亜剌比亞の一弗、第百六十九位は亜剌伯の九千弗、第百七十位は亜剌比亞の八千弗、第百七十一位は亜剌伯の七千弗、第百七十二位は亜剌比亞の六千弗、第百七十三位は亜剌伯の五千弗、第百七十四位は亜剌比亞の四千弗、第百七十五位は亜剌伯の三千弗、第百七十六位は亜剌比亞の二千弗、第百七十七位は亜剌伯の一千弗、第百七十八位は亜剌比亞の九百弗、第百七十九位は亜剌伯の八百弗、第百八十位は亜剌比亞の七百弗、第百八十一位は亜剌伯の六百弗、第百八十二位は亜剌比亞の五百弗、第百八十三位は亜剌伯の四百弗、第百八十四位は亜剌比亞の三百弗、第百八十五位は亜剌伯の二百弗、第百八十六位は亜剌比亞の一百弗、第百八十七位は亜剌伯の九十弗、第百八十八位は亜剌比亞の八十弗、第百八十九位は亜剌伯の七十弗、第百九十位は亜剌比亞の六十弗、第百九十一位は亜剌伯の五十弗、第百九十二位は亜剌比亞の四十弗、第百九十三位は亜剌伯の三十弗、第百九十四位は亜剌比亞の二十弗、第百九十五位は亜剌伯の一十弗、第百九十六位は亜剌比亞の九弗、第百九十七位は亜剌伯の八弗、第百九十八位は亜剌比亞の七弗、第百九十九位は亜剌伯の六弗、第二百位は亜剌比亞の五弗、第二百一位は亜剌伯の四弗、第二百二位は亜剌比亞の三弗、第二百三位は亜剌伯の二弗、第二百四位は亜剌比亞の一弗、第二百五位は亜剌伯の九千弗、第二百六位は亜剌比亞の八千弗、第二百七位は亜剌伯の七千弗、第二百八位は亜剌比亞の六千弗、第二百九位は亜剌伯の五千弗、第二百十位は亜剌比亞の四千弗、第二百十一位は亜剌伯の三千弗、第二百十二位は亜剌比亞の二千弗、第二百十三位は亜剌伯の一千弗、第二百十四位は亜剌比亞の九百弗、第二百十五位は亜剌伯の八百弗、第二百十六位は亜剌比亞の七百弗、第二百十七位は亜剌伯の六百弗、第二百十八位は亜剌比亞の五百弗、第二百十九位は亜剌伯の四百弗、第二百二十位は亜剌比亞の三百弗、第二百二十一位は亜剌伯の二百弗、第二百二十二位は亜剌比亞の一百弗、第二百二十三位は亜剌伯の九十弗、第二百二十四位は亜剌比亞の八十弗、第二百二十五位は亜剌伯の七十弗、第二百二十六位は亜剌比亞の六十弗、第二百二十七位は亜剌伯の五十弗、第二百二十八位は亜剌比亞の四十弗、第二百二十九位は亜剌伯の三十弗、第二百三十位は亜剌比亞の二十弗、第二百三十一位は亜剌伯の一十弗、第二百三十二位は亜剌比亞の九弗、第二百三十三位は亜剌伯の八弗、第二百三十四位は亜剌比亞の七弗、第二百三十五位は亜剌伯の六弗、第二百三十六位は亜剌比亞の五弗、第二百三十七位は亜剌伯の四弗、第二百三十八位は亜剌比亞の三弗、第二百三十九位は亜剌伯の二弗、第二百四十位は亜剌比亞の一弗、第二百四十一位は亜剌伯の九千弗、第二百四十二位は亜剌比亞の八千弗、第二百四十三位は亜剌伯の七千弗、第二百四十四位は亜剌比亞の六千弗、第二百四十五位は亜剌伯の五千弗、第二百四十六位は亜剌比亞の四千弗、第二百四十七位は亜剌伯の三千弗、第二百四十八位は亜剌比亞の二千弗、第二百四十九位は亜剌伯の一千弗、第二百五十位は亜剌比亞の九百弗、第二百五十一位は亜剌伯の八百弗、第二百五十二位は亜剌比亞の七百弗、第二百五十三位は亜剌伯の六百弗、第二百五十四位は亜剌比亞の五百弗、第二百五十五位は亜剌伯の四百弗、第二百五十六位は亜剌比亞の三百弗、第二百五十七位は亜剌伯の二百弗、第二百五十八位は亜剌比亞の一百弗、第二百五十九位は亜剌伯の九十弗、第二百六十位は亜剌比亞の八十弗、第二百六十一位は亜剌伯の七十弗、第二百六十二位は亜剌比亞の六十弗、第二百六十三位は亜剌伯の五十弗、第二百六十四位は亜剌比亞の四十弗、第二百六十五位は亜剌伯の三十弗、第二百六十六位は亜剌比亞の二十弗、第二百六十七位は亜剌伯の一十弗、第二百六十八位は亜剌比亞の九弗、第二百六十九位は亜剌伯の八弗、第二百七十位は亜剌比亞の七弗、第二百七十一位は亜剌伯の六弗、第二百七十二位は亜剌比亞の五弗、第二百七十三位は亜剌伯の四弗、第二百七十四位は亜剌比亞の三弗、第二百七十五位は亜剌伯の二弗、第二百七十六位は亜剌比亞の一弗、第二百七十七位は亜剌伯の九千弗、第二百七十八位は亜剌比亞の八千弗、第二百七十九位は亜剌伯の七千弗、第二百八十位は亜剌比亞の六千弗、第二百八十一位は亜剌伯の五千弗、第二百八十二位は亜剌比亞の四千弗、第二百八十三位は亜剌伯の三千弗、第二百八十四位は亜剌比亞の二千弗、第二百八十五位は亜剌伯の一千弗、第二百八十六位は亜剌比亞の九百弗、第二百八十七位は亜剌伯の八百弗、第二百八十八位は亜剌比亞の七百弗、第二百八十九位は亜剌伯の六百弗、第二百九十位は亜剌比亞の五百弗、第二百九十一位は亜剌伯の四百弗、第二百九十二位は亜剌比亞の三百弗、第二百九十三位は亜剌伯の二百弗、第二百九十四位は亜剌比亞の一百弗、第二百九十五位は亜剌伯の九十弗、第二百九十六位は亜剌比亞の八十弗、第二百九十七位は亜剌伯の七十弗、第二百九十八位は亜剌比亞の六十弗、第二百九十九位は亜剌伯の五十弗、第三百位は亜剌比亞の四十弗、第三百一位は亜剌伯の三十弗、第三百二位は亜剌比亞の二十弗、第三百三位は亜剌伯の一十弗、第三百四位は亜剌比亞の九弗、第三百五位は亜剌伯の八弗、第三百六位は亜剌比亞の七弗、第三百七位は亜剌伯の六弗、第三百八位は亜剌比亞の五弗、第三百九位は亜剌伯の四弗、第三百十位は亜剌比亞の三弗、第三百十一位は亜剌伯の二弗、第三百十二位は亜剌比亞の一弗、第三百十三位は亜剌伯の九千弗、第三百十四位は亜剌比亞の八千弗、第三百十五位は亜剌伯の七千弗、第三百十六位は亜剌比亞の六千弗、第三百十七位は亜剌伯の五千弗、第三百十八位は亜剌比亞の四千弗、第三百十九位は亜剌伯の三千弗、第三百二十位は亜剌比亞の二千弗、第三百二十一位は亜剌伯の一千弗、第三百二十二位は亜剌比亞の九百弗、第三百二十三位は亜剌伯の八百弗、第三百二十四位は亜剌比亞の七百弗、第三百二十五位は亜剌伯の六百弗、第三百二十六位は亜剌比亞の五百弗、第三百二十七位は亜剌伯の四百弗、第三百二十八位は亜剌比亞の三百弗、第三百二十九位は亜剌伯の二百弗、第三百三十位は亜剌比亞の一百弗、第三百三十一位は亜剌伯の九十弗、第三百三十二位は亜剌比亞の八十弗、第三百三十三位は亜剌伯の七十弗、第三百三十四位は亜剌比亞の六十弗、第三百三十五位は亜剌伯の五十弗、第三百三十六位は亜剌比亞の四十弗、第三百三十七位は亜剌伯の三十弗、第三百三十八位は亜剌比亞の二十弗、第三百三十九位は亜剌伯の一十弗、第三百四十位は亜剌比亞の九弗、第三百四十一位は亜剌伯の八弗、第三百四十二位は亜剌比亞の七弗、第三百四十三位は亜剌伯の六弗、第三百四十四位は亜剌比亞の五弗、第三百四十五位は亜剌伯の四弗、第三百四十六位は亜剌比亞の三弗、第三百四十七位は亜剌伯の二弗、第三百四十八位は亜剌比亞の一弗、第三百四十九位は亜剌伯の九千弗、第三百五十位は亜剌比亞の八千弗、第三百五十一位は亜剌伯の七千弗、第三百五十二位は亜剌比亞の六千弗、第三百五十三位は亜剌伯の五千弗、第三百五十四位は亜剌比亞の四千弗、第三百五十五位は亜剌伯の三千弗、第三百五十六位は亜剌比亞の二千弗、第三百五十七位は亜剌伯の一千弗、第三百五十八位は亜剌比亞の九百弗、第三百五十九位は亜剌伯の八百弗、第三百六十位は亜剌比亞の七百弗、第三百六十一位は亜剌伯の六百弗、第三百六十二位は亜剌比亞の五百弗、第三百六十三位は亜剌伯の四百弗、第三百六十四位は亜剌比亞の三百弗、第三百六十五位は亜剌伯の二百弗、第三百六十六位は亜剌比亞の一百弗、第三百六十七位は亜剌伯の九十弗、第三百六十八位は亜剌比亞の八十弗、第三百六十九位は亜剌伯の七十弗、第三百七十位は亜剌比亞の六十弗、第三百七十一位は亜剌伯の五十弗、第三百七十二位は亜剌比亞の四十弗、第三百七十三位は亜剌伯の三十弗、第三百七十四位は亜剌比亞の二十弗、第三百七十五位は亜剌伯の一十弗、第三百七十六位は亜剌比亞の九弗、第三百七十七位は亜剌伯の八弗、第三百七十八位は亜剌比亞の七弗、第三百七十九位は亜剌伯の六弗、第三百八十位は亜剌比亞の五弗、第三百八十一位は亜剌伯の四弗、第三百八十二位は亜剌比亞の三弗、第三百八十三位は亜剌伯の二弗、第三百八十四位は亜剌比亞の一弗、第三百八十五位は亜剌伯の九千弗、第三百八十六位は亜剌比亞の八千弗、第三百八十七位は亜剌伯の七千弗、第三百八十八位は亜剌比亞の六千弗、第三百八十九位は亜剌伯の五千弗、第三百九十位は亜剌比亞の四千弗、第三百九十一位は亜剌伯の三千弗、第三百九十二位は亜剌比亞の二千弗、第三百九十三位は亜剌伯の一千弗、第三百九十四位は亜剌比亞の九百弗、第三百九十五位は亜剌伯の八百弗、第三百九十六位は亜剌比亞の七百弗、第三百九十七位は亜剌伯の六百弗、第三百九十八位は亜剌比亞の五百弗、第三百九十九位は亜剌伯の四百弗、第四百位は亜剌比亞の三百弗、第四百一位は亜剌伯の二百弗、第四百二位は亜剌比亞の一百弗、第四百三位は亜剌伯の九十弗、第四百四位は亜剌比亞の八十弗、第四百五位は亜剌伯の七十弗、第四百六位は亜剌比亞の六十弗、第四百七位は亜剌伯の五十弗、第四百八位は亜剌比亞の四十弗、第四百九位は亜剌伯の三十弗、第四百十位は亜剌比亞の二十弗、第四百十一位は亜剌伯の一十弗、第四百十二位は亜剌比亞の九弗、第四百十三位は亜剌伯の八弗、第四百十四位は亜剌比亞の七弗、第四百十五位は亜剌伯の六弗、第四百十六位は亜剌比亞の五弗、第四百十七位は亜剌伯の四弗、第四百十八位は亜剌比亞の三弗、第四百十九位は亜剌伯の二弗、第四百二十位は亜剌比亞の一弗、第四百二十一位は亜剌伯の九千弗、第四百二十二位は亜剌比亞の八千弗、第四百二十三位は亜剌伯の七千弗、第四百二十四位は亜剌比亞の六千弗、第四百二十五位は亜剌伯の五千弗、第四百二十六位は亜剌比亞の四千弗、第四百二十七位は亜剌伯の三千弗、第四百二十八位は亜剌比亞の二千弗、第四百二十九位は亜剌伯の一千弗、第四百三十位は亜剌比亞の九百弗、第四百三十一位は亜剌伯の八百弗、第四百三十二位は亜剌比亞の七百弗、第四百三十三位は亜剌伯の六百弗、第四百三十四位は亜剌比亞の五百弗、第四百三十五位は亜剌伯の四百弗、第四百三十六位は亜剌比亞の三百弗、第四百三十七位は亜剌伯の二百弗、第四百三十八位は亜剌比亞の一百弗、第四百三十九位は亜剌伯の九十弗、第四百四十位は亜剌比亞の八十弗、第四百四十一位は亜剌伯の七十弗、第四百四十二位は亜剌比亞の六十弗、第四百四十三位は亜剌伯の五十弗、第四百四十四位は亜剌比亞の四十弗、第四百四十五位は亜剌伯の三十弗、第四百四十六位は亜剌比亞の二十弗、第四百四十七位は亜剌伯の一十弗、第四百四十八位は亜剌比亞の九弗、第四百四十九位は亜剌伯の八弗、第四百五十位は亜剌比亞の七弗、第四百五十一位は亜剌伯の六弗、第四百五十二位は亜剌比亞の五弗、第四百五十三位は亜剌伯の四弗、第四百五十四位は亜剌比亞の三弗、第四百五十五位は亜剌伯の二弗、第四百五十六位は亜剌比亞の一弗、第四百五十七位は亜剌伯の九千弗、第四百五十八位は亜剌比亞の八千弗、第四百五十九位は亜剌伯の七千弗、第四百六十位は亜剌比亞の六千弗、第四百六十一位は亜剌伯の五千弗、第四百六十二位は亜剌比亞の四千弗、第四百六十三位は亜剌伯の三千弗、第四百六十四位は亜剌比亞の二千弗、第四百六十五位は亜剌伯の一千弗、第四百六十六位は亜剌比亞の九百弗、第四百六十七位は亜剌伯の八百弗、第四百六十八位は亜剌比亞の七百弗、第四百六十九位は亜剌伯の六百弗、第四百七十位は亜剌比亞の五百弗、第四百七十一位は亜剌伯の四百弗、第四百七十二位は亜剌比亞の三百弗、第四百七十三位は亜剌伯の二百弗、第四百七十四位は亜剌比亞の一百弗、第四百七十五位は亜剌伯の九十弗、第四百七十六位は亜剌比亞の八十弗、第四百七十七位は亜剌伯の七十弗、第四百七十八位は亜剌比亞の六十弗、第四百七十九位は亜剌伯の五十弗、第四百八十位は亜剌比亞の四十弗、第四百八十一位は亜剌伯の三十弗、第四百八十二位は亜剌比亞の二十弗、第四百八十三位は亜剌伯の一十弗、第四百八十四位は亜剌比亞の九弗、第四百八十五位は亜剌伯の八弗、第四百八十六位は亜剌比亞の七弗、第四百八十七位は亜剌伯の六弗、第四百八十八位は亜剌比亞の五弗、第四百八十九位は亜剌伯の四弗、第四百九十位は亜剌比亞の三弗、第四百九十一位は亜剌伯の二弗、第四百九十二位は亜剌比亞の一弗、第四百九十三位は亜剌伯の九千弗、第四百九十四位は亜剌比亞の八千弗、第四百九十五位は亜剌伯の七千弗、第四百九十六位は亜剌比亞の六千弗、第四百九十七位は亜剌伯の五千弗、第四百九十八位は亜剌比亞の四千弗、第四百九十九位は亜剌伯の三千弗、第五百位は亜剌比亞の二千弗、第五百一位は亜剌伯の一千弗、第五百二位は亜剌比亞の九百弗、第五百三位は亜剌伯の八百弗、第五百四位は亜剌比亞の七百弗、第五百五位は亜剌伯の六百弗、第五百六位は亜剌比亞の五百弗、第五百七位は亜剌伯の四百弗、第五百八位は亜剌比亞の三百弗、第五百九位は亜剌伯の二百弗、第五百十位は亜剌比亞の一百弗、第五百十一位は亜剌伯の九十弗、第五百十二位は亜剌比亞の八十弗、第五百十三位は亜剌伯の七十弗、第五百十四位は亜剌比亞の六十弗、第五百十五位は亜剌伯の五十弗、第五百十六位は亜剌比亞の四十弗、第五百十七位は亜剌伯の三十弗、第五百十八位は亜剌比亞の二十弗、第五百十九位は亜剌伯の一十弗、第五百二十位は亜剌比亞の九弗、第五百二十一位は亜剌伯の八弗、第五百二十二位は亜剌比亞の七弗、第五百二十三位は亜剌伯の六弗、第五百二十四位は亜剌比亞の五弗、第五百二十五位は亜剌伯の四弗、第五百二十六位は亜剌比亞の三弗、第五百二十七位は亜剌伯の二弗、第五百二十八位は亜剌比亞の一弗、第五百二十九位は亜剌伯の九千弗、第五百三十位は亜剌比亞の八千弗、第五百三十一位は亜剌伯の七千弗、第五百三十二位は亜剌比亞の六千弗、第五百三十三位は亜剌伯の五千弗、第五百三十四位は亜剌比亞の四千弗、第五百三十五位は亜剌伯の三千弗、第五百三十六位は亜剌比亞の二千弗、第五百三十七位は亜剌伯の一千弗、第五百三十八位は亜剌比亞の九百弗、第五百三十九位は亜剌伯の八百弗、第五百四十位は亜剌比亞の七百弗、第五百四十一位は亜剌伯の六百弗、第五百四十二位は亜剌比亞の五百弗、第五百四十三位は亜剌伯の四百弗、第五百四十四位は亜剌比亞の三百弗、第五百四十五位は亜剌伯の二百弗、第五百四十六位は亜剌比亞の一百弗、第五百四十七位は亜剌伯の九十弗、第五百四十八位は亜剌比亞の八十弗、第五百四十九位は亜剌伯の七十弗、第五百五十位は亜剌比亞の六十弗、第五百五十一位は亜剌伯の五十弗、第五百五十二位は亜剌比亞の四十弗、第五百五十三位は亜剌伯の三十弗、第五百五十四位は亜剌比亞の二十弗、第五百五十五位は亜剌伯の一十弗、第五百五十六位は亜剌比亞の九弗、第五百五十七位は亜剌伯の八弗、第五百五十八位は亜剌比亞の七弗、第五百五十九位は亜剌伯の六弗、第五百六十位は亜剌比亞の五弗、第五百六十一位は亜剌伯の四弗、第五百六十二位は亜剌比亞の三弗、第五百六十三位は亜剌伯の二弗、第五百六十四位は亜剌比亞の一弗、第五百六十五位は亜剌伯の九千弗、第五百六十六位は亜剌比亞の八千弗、第五百六十七位は亜剌伯の七千弗、第五百六十八位は亜剌比亞の六千弗、第五百六十九位は亜剌伯の五千弗、第五百七十位は亜剌比亞の四千弗、第五百七十一位は亜剌伯の三千弗、第五百七十二位は亜剌比亞の二千弗、第五百七十三位は亜剌伯の一千弗、第五百七十四位は亜剌比亞の九百弗、第五百七十五位は亜剌伯の八百弗、第五百七十六位は亜剌比亞の七百弗、第五百七十七位は亜剌伯の六百弗、第五百七十八位は亜剌比亞の五百弗、第五百七十九位は亜剌伯の四百弗、第五百八十位は亜剌比亞の三百弗、第五百八十一位は亜剌伯の二百弗、第五百八十二位は亜剌比亞の一百弗、第五百八十三位は亜剌伯の九十弗、第五百八十四位は亜剌比亞の八十弗、第五百八十五位は亜剌伯の七十弗、第五百八十六位は亜剌比亞の六十弗、第五百八十七位は亜剌伯の五十弗、第五百八十八位は亜剌比亞の四十弗、第五百八十九位は亜剌伯の三十弗、第五百九十位は亜剌比亞の二十弗、第五百九十一位は亜剌伯の一十弗、第五百九十二位は亜剌比亞の九弗、第五百九十三位は亜剌伯の八弗、第五百九十四位は亜剌比亞の七弗、第五百九十五位は亜剌伯の六弗、第五百九十六位は亜剌比亞の五弗、第五百九十七位は亜剌伯の四弗、第五百九十八位は亜剌比亞の三弗、第五百九十九位は亜剌伯の二弗、第六百位は亜剌比亞の一弗、第六百一位は亜剌伯の九千弗、第六百二位は亜剌比亞の八千弗、第六百三位は亜剌伯の七千弗、第六百四位は亜剌比亞の六千弗、第六百五位は亜剌伯の五千弗、第六百六位は亜剌比亞の四千弗、第六百七位は亜剌伯の三千弗、第六百八位は亜剌比亞の二千弗、第六百九位は亜剌伯の一千弗、第六百十位は亜剌比亞の九百弗、第六百十一位は亜剌伯の八百弗、第六百十二位は亜剌比亞の七百弗、第六百十三位は亜剌伯の六百弗、第六百十四位は亜剌比亞の五百弗、第六百十五位は亜剌伯の四百弗、第六百十六位は亜剌比亞の三百弗、第六百十七位は亜剌伯の二百弗、第六百十八位は亜剌比亞の一百弗、第六百十九位は亜剌伯の九十弗、第六百二十位は亜剌比亞の八十弗、第六百二十一位は亜剌伯の七十弗、第六百二十二位は亜剌比亞の六十弗、第六百二十三位は亜剌伯の五十弗、第六百二十四位は亜剌比亞の四十弗、第六百二十五位は亜剌伯の三十弗、第六百二十六位は亜剌比亞の二十弗、第六百二十七位は亜剌伯の一十弗、第六百二十八位は亜剌比亞の九弗、第六百二十九位は亜剌伯の八弗、第六百三十位は亜剌比亞の七弗、第六百三十一位は亜剌伯の六弗、第六百三十二位は亜剌比亞の五弗、第六百三十三位は亜剌伯の四弗、第六百三十四位は亜剌比亞の三弗、第六百三十五位は亜剌伯の二弗、第六百三十六位は亜剌比亞の一弗、第六百三十七位は亜剌伯の九千弗、第六百三十八位は亜剌比亞の八千弗、第六百三十九位は亜剌伯の七千弗、第六百四十位は亜剌比亞の六千弗、第六百四十一位は亜剌伯の五千弗、第六百四十二位は亜剌比亞の四千弗、第六百四十三位は亜剌伯の三千弗、第六百四十四位は亜剌比亞の二千弗、第六百四十五位は亜剌伯の一千弗、第六百四十六位は亜剌比亞の九百弗、第六百四十七位は亜剌伯の八百弗、第六百四十八位は亜剌比亞の七百弗、第六百四十九位は亜剌伯の六百弗、第六百五十位は亜剌比亞の五百弗、第六百五十一位は亜剌伯の四百弗、第六百五十二位は亜剌比亞の三百弗、第六百五十三位は亜剌伯の二百弗、第六百五十四位は亜剌比亞の一百弗、第六百五十五位は亜剌伯の九十弗、第六百五十六位は亜剌比亞の八十弗、第六百五十七位は亜剌伯の七十弗、第六百五十八位は亜剌比亞の六十弗、第六百五十九位は亜剌伯の五十弗、第六百六十位は亜剌比亞の四十弗、第六百六十一位は亜剌伯の三十弗、第六百六十二位は亜剌比亞の二十弗、第六百六十三位は亜剌伯の一十弗、第六百六十四位は亜剌比亞の九弗、第六百六十五位は亜剌伯の八弗、第六百六十六位は亜剌比亞の七弗、第六百六十七位は亜剌伯の六弗、第六百六十八位は亜剌比亞の五弗、第六百六十九位は亜剌伯の四弗、第六百七十位は亜剌比亞の三弗、第六百七十一位は亜剌伯の二弗、第六百七十二位は亜剌比亞の一弗、第六百七十三位は亜剌伯の九千弗、第六百七十四位は亜剌比亞の八千弗、第六百七十五位は亜剌伯の七千弗、第六百七十六位は亜剌比亞の六千弗、第六百七十七位は亜剌伯の五千弗、第六百七十八位は亜剌比亞の四千弗、第六百七十九位は亜剌伯の三千弗、第六百八十位は亜剌比亞の二千弗、第六百八十一位は亜剌伯の一千弗、第六百八十二位は亜剌比亞の九百弗、第六百八十三位は亜剌伯の八百弗、第六百八十四位は亜剌比亞の七百弗、第六百八十五位は亜剌伯の六百弗、第六百八十六位は亜剌比亞の五百弗、第六百八十七位は亜剌伯の四百弗、第六百八十八位は亜剌比亞の三百弗、第六百八十九位は亜剌伯の二百弗、第六百九十位は亜剌比亞の一百弗、第六百九十一位は亜剌伯の九十弗、第六百九十二位は亜剌比亞の八十弗、第六百九十三位は亜剌伯の七十弗、第六百九十四位は亜剌比亞の六十弗、第六百九十五位は亜剌伯の五十弗、第六百九十六位は亜剌比亞の四十弗、第六百九十七位は亜剌伯の三十弗、第六百九十八位は亜剌比亞の二十弗、第六百九十九位は亜剌伯の一十弗、第七百位は亜剌比亞の九弗、第七百一位は亜剌伯の八弗、第七百二位は亜剌比亞の七弗、第七百三位は亜剌伯の六弗、第七百四位は亜剌比亞の五弗、第七百五位は亜剌伯の四弗、第七百六位は亜剌比亞の三弗、第七百七位は亜剌伯の二弗、第七百八位は亜剌比亞の一弗、第七百九位は亜剌伯の九千弗、第七百十位は亜剌比亞の八千弗、第七百十一位は亜剌伯の七千弗、第七百十二位は亜剌比亞の六千弗、第七百十三位は亜剌伯の五千弗、第七百十四位は亜剌比亞の四千弗、第七百十五位は亜剌伯の三千弗、第七百十六位は亜剌比亞の二千弗、第七百十七位は亜剌伯の一千弗、第七百十八位は亜剌比亞の九百弗、第七百十九位は亜剌伯の八百弗、第七百二十位は亜剌比亞の七百弗、第七百二十一位は亜剌伯の六百弗、第七百二十二位は亜剌比亞の五百弗、第七百二十三位は亜剌伯の四百弗、第七百二十四位は亜剌比亞の三百弗、第七百二十五位は亜剌伯の二百弗、第七百二十六位は亜剌比亞の一百弗、第七百二十七位は亜剌伯の九十弗、第七百二十八位は亜剌比亞の八十弗、第七百二十九位は亜剌伯の七十弗、第七百三十位は亜剌比亞の六十弗、第七百三十一位は亜剌伯の五十弗、第七百三十二位は亜剌比亞の四十弗、第七百三十三位は亜剌伯の三十弗、第七百三十四位は亜剌比亞の二十弗、第七百三十五位は亜剌伯の一十弗、第七百三十六位は亜剌比亞の九弗、第七百三十七位は亜剌伯の八弗、第七百三十八位は亜剌比亞の七弗、第七百三十九位は亜剌伯の六弗、第七百四十位は亜剌比亞の五弗、第七百四十一位は亜剌伯の四弗、第七百四十二位は亜剌比亞の三弗、第七百四十三位は亜剌伯の二弗、第七百四十四位は亜剌比亞の一弗、第七百四十五位は亜剌伯の九千弗、第七百四十六位は亜剌比亞の八千弗、第七百四十七位は亜剌伯の七千弗、第七百四十八位は亜剌比亞の六千弗、第七百四十九位は亜剌伯の五千弗、第七百五十位は亜剌比亞の四千弗、第七百五十一位は亜剌伯の三千弗、第七百五十二位は亜剌比亞の二千弗、第七百五十三位は亜剌伯の一千弗、第七百五十四位は亜剌比亞の九百弗、第七百五十五位は亜剌伯の八百弗、第七百五十六位は亜剌比亞の七百弗、第七百五十七位は亜剌伯の六百弗、第七百五十八位は亜剌比亞の五百弗、第七百五十九位は亜剌伯の四百弗、第七百六十位は亜剌比亞の三百弗、第七百六十一位は亜剌伯の二百弗、第七百六十二位は亜剌比亞の一百弗、第七百六十三位は亜剌伯の九十弗、第七百六十四位は亜剌比亞の八十弗、第七百六十五位は亜剌伯の七十弗、第七百六十六位は亜剌比亞の六十弗、第七百六十七位は亜剌伯の五十弗、第七百六十八位は亜剌比亞の四十弗、第七百六十九位は亜剌伯の三十弗、第七百七十位は亜剌比亞の二十弗、第七百七十一位は亜剌伯の一十弗、第七百七十二位は亜剌比亞の九弗、第七百七十三位は亜剌伯の八弗、第七百七十四位は亜剌比亞の七弗、第七百七十五位は亜剌伯の六弗、第七百七十六位は亜剌比亞の五弗、第七百七十七位は亜剌伯の四弗、第七百七十八位は亜剌比亞の三弗、第七百七十九位は亜剌伯の二弗、第七百八十位は亜剌比亞の一弗、第七百八十一位は亜剌伯の九千弗、第七百八十二位は亜剌比亞の八千弗、第七百八十三位は亜剌伯の七千弗、第七百八十四位は亜剌比亞の六千弗、第七百八十五位は亜剌伯の五千弗、第七百八十六位は亜剌比亞の四千弗、第七百八十七位は亜剌伯の三千弗、第七百八十八位は亜剌比亞の二千弗、第七百八十九位は亜剌伯の一千弗、第七百九十位は亜剌比亞の九百弗、第七百九十一位は亜剌伯の八百弗、第七百九十二位は亜剌比亞の七百弗、第七百九十三位は亜剌伯の六百弗、第七百九十四位は亜剌比亞の五百弗

輸出入共に前年度に比して著しい增加を示し、更らに一九三六年度一ヶ年の輸入總額六三八七六八千弗を今年度は既に十一月末に於いて突破した、本年度總貿易額は一、六〇八、四五〇千弗を豫想され一九三〇年以來の最高記錄を再現するものと見られてゐる。

對日貿易

輸入

十一月	一、六四二〇〇〇弗
十一月	一、三四五、三八〇、〇〇〇弗

輸入減少は十月の八千噸、五千六百〇六噸となる。九月迄である。

八月	三、二四六〇〇〇弗
七月	四〇六、〇〇〇弗
	四六〇四〇〇〇弗

華僑のボイコットにより漸月減少を續けつゝある。

輸出

十一月	四八五二〇〇〇弗

十一月	四八五二〇〇〇弗
輸出	
準備のオトロヴイルに際し月産が少減少しつゝある。	
十月	四六〇四〇〇〇弗
八月	四〇六一〇〇〇弗
六月	三二四六〇〇〇弗
十月	二四三八〇〇〇弗
十一月	一六四三〇〇〇弗
輸入	
貿易日誌	

以上三〇年以來の最高記錄を再興せるものである。

ヘ了突破し、本年第勝貿易額は一八六〇万弗を超過した。

一月末に於ては既往今年度中の輸入額六三八万六千弗を超過し十一月は五千六百〇一弗の輸入共に前年度に比べて著しく減少した。

輸出入共に前年度に比べて著しく減少した。

十一月	四二九九〇〇〇弗
前年度	六九二〇〇〇弗
十一月	
對蘭印貿易	
輸入	
十一月	一五三三〇〇〇弗
十月	一六四八三〇〇〇弗

輸入減少は護謨輸入が十月の八千噸に比して十一月は五千六百〇六噸となつたためである。

輸出	
十一月	三二四八〇〇〇弗
十月	三九二五〇〇〇弗
對米貿易	
輸入	

輸入

十月	二、三二八、〇〇〇弗
十一月	二、〇八四、〇〇〇弗

輸出

十月	一、六四八、〇〇〇弗
十一月	一、五四五、〇〇〇弗

輸入

十月	六、〇〇〇弗
十一月	四、二六六、〇〇〇弗

輸出

十月	二、三二八、〇〇〇弗
十一月	一、四四九、〇〇〇弗
前年度十一月	七、三八〇、〇〇〇弗

輸出

十一月	二、七四三、六〇〇弗
十月	三、四一七、八〇〇弗
前年度十一月	五、四九二、〇〇〇弗

對米輸出額の減少は十月中一ピクル平均百十二弗の錫價が九十二三弗台に落ちたことゝ護謨及錫の船送高の減少によるものである、ゴム價も二十三四仙台の下押を續け、馬來亞輸出貿易に大きな影響を與へつゝある。

對英貿易

輸入

輸入	
英國	三四、六二二、〇〇〇弗
米國	三四、一七八、〇〇〇弗
蘭印	二、六四三、〇〇〇弗
輸出	
英國	一、四四六、〇〇〇弗
米國	一、四四四、〇〇〇弗
蘭印	一、三二八、〇〇〇弗

英國貿易

書き與へつゝある。

ヒと對ると二十三四倍合の不拘を輸出貿易に大多額を、殊に來亞細亞、

三倍合以著さかたちゝ難題及議の發展高の為めにより平均百十二倍の輸出超過

英米輸出超の為め十月中一ヶ月平均百十二倍の輸出超過

十一月	三四、六二二、〇〇〇弗
前年度	三四、一七八、〇〇〇弗
十月	二、六四三、〇〇〇弗
十一月	二、六四三、〇〇〇弗

輸出

十一月	一、四四六、〇〇〇弗
前年度	一、四四四、〇〇〇弗
十月	一、三二八、〇〇〇弗
十一月	一、三二八、〇〇〇弗

力弱き全馬十一月大衆は日本品に替一〇、四二二、〇〇〇弗到底手も足も出せない十な月ど餘儀なき必需品が九三〇、七〇〇、〇〇〇弗によつて歐米品が輸入前年度これは必然である。現在の情勢下に於て止むを得ない、吾等は十一月てこれに驚くものではない。七二〇、四〇〇、〇〇〇弗

皇軍の輸出支那事變は遽かに英國の在支既勢力の崩壊である、その結果招來され十一月は英國の東亞に於ける五八〇、八〇〇、〇〇〇弗は然南洋及印度市場に於いて十月當制の緩和、關稅壓の九二六、〇〇〇、〇〇〇弗され、再び躍進日本の前年度南方一帶の市場に一三、五五〇、〇〇〇弗て奪はないものである。十一月

日本品輸入が減退し英米の輸入が漸次增加を示して來たことは、單なる準備のみによる日本品ボイコットの影響だけでなく、英國人も暗默の間にボイコットを申し合せた如く實行しつゝあることは吾等の關心すべきである、クリスマスを前にして二流以下の英國人が日本人雜貨商舗に寄りつかざることを見ても明瞭である、一般購買

日本人顯著商輸入品のうちから見ても明かである、一般輸買輸入の中に於ける、ゴムは前年度に比べて二倍以上の英國人が買ひ求めたことを示してゐる、吾々は今後益々〳〵加速度的に實行しつゝあるゴム問題の問題は日本ゴムの進出に合ひ合ふ如く、英國人の繁榮のために日本品ボイコットにゴムの

英領各地	三、八四八、〇〇〇弗
歐洲各國	六一六、〇〇〇弗
米國	二四八、〇〇〇弗
日本	七二、〇〇〇弗
蘭領東印度	三、三二二、〇〇〇弗
其他	四、五九八、〇〇〇弗
合計	一四、八七七、〇〇〇弗
本年度十月	一四、〇六五、〇〇〇弗
前年度十一月	一二、一九八、〇〇〇弗

三、未定製品及部分品

仕出國	總額
英國	三三、〇〇〇弗
英領各地	三、一七八、〇〇〇弗
歐洲各國	一三、〇〇〇弗

英國	三、一七六、〇〇〇弗

仕出國

一、食糧、燃料、飼草。

人

十一月輸出入總額表

よりである。

關東日本の商品は南一帶の市場に滿洲來れば、北部は滿洲の鐵道、印度、南洋、自然南洋の東亞に於ける勢力圏である、英國の東亞支配は皇軍の南支進擊は勿論英國の支配崩壞である、滿洲國の獨立、ソ連の滿洲國、等々は英國の力を減じてゐる。

米品は輸入されるに從ひ必然日本品は輸出されるべき筈である。現在の貿易は輸入品が日本品ボイコットに對して輸出品が日本品を壓倒する高貴な品に替る日は東亞の大樂園日本品は全東亞來の品は國際的に手を伸ばす

爪哇各國	一、三四〇、〇〇〇弗
英領各地	一、一五三、〇〇〇弗
英領印度	四、八六五、〇〇〇弗
出口國	三、四七七、〇〇〇弗
米國	一、一〇、七九九、〇〇〇弗
總輸入額	一、三九、〇〇〇弗
前年度十一月	一、七四二、〇〇〇弗
本年度十月	一、三九九、〇〇〇弗
合計	二、〇四〇、〇〇〇弗
其他	一、三九〇、〇〇〇弗
日本	一、一五一、〇〇〇弗
蘭領東印度	三、三〇四、〇〇〇弗
米國	三、六一三、〇〇〇弗
英領各地	二、〇四〇、〇〇〇弗

爪哇各國	一、三〇〇、〇〇〇弗
英領各地	一、一五八、〇〇〇弗
出口國	三、〇〇〇、〇〇〇弗
米國	一、一八一、〇〇〇弗
日本	一、〇六五、〇〇〇弗
蘭領東印度	一、四八、〇〇〇弗
其他	一、四五六、〇〇〇弗
合計	三、三二六、〇〇〇弗
本年度十月	二、〇四〇、〇〇〇弗
前年度十一月	一、六一六、〇〇〇弗
爪哇各國	一、三八四、〇〇〇弗

	本年度十一月	前年度十一月	本年度十月	前年度十一月
米國仕出銀貨及金銀			合計	
英國仕出銀貨及金銀			其他諸國	
日本國郵便小包による各種			日本國郵便切手	
米國	一一一三九〇〇〇〇弗	四四八九三〇〇〇〇弗	五一七〇〇〇〇〇弗	一七二六一九四三〇〇〇〇弗
英國	一一六〇〇〇〇〇弗	四四八〇〇〇〇〇弗	五一七〇〇〇〇〇弗	一七二六一九四三〇〇〇〇弗
日本國郵便小包による各種			日本國郵便切手	
米國	一一一

英領各地	一三六〇〇〇弗
英國	一一六〇〇〇弗
出	廿
出	廿
出	廿

蘭領東印度	一八九四〇〇〇弗
其他	四七八〇〇〇弗
合計	五二〇三〇〇〇弗
本年度十月	四九一六〇〇〇弗
前年度十一月	四三二〇〇〇弗

二、原料及未製品

	總額
仕向國	
英領各國	四六八四〇〇〇弗
英領各地	二五七〇〇〇弗
歐洲各國	八〇二四〇〇〇弗
米國	二〇四九七〇〇弗
日本	一九七一〇〇〇弗
蘭領東印度	一三九〇〇〇弗

日本	一八〇〇〇弗
米國	五三〇〇〇弗
瀬佛谷國	一七三〇〇〇弗
英領各地	二〇一六〇〇〇弗
英領各國	五三七〇〇〇弗
仕向國	
一、食料、飲料、煙草	四一〇〇〇弗
輸出	二一二八〇〇〇弗
本年度十月	一二二八〇〇〇弗
合計	二二六〇〇〇弗
其他	一四四〇〇〇弗
蘭領東印度	